



Cisco UCS Server Configuration Utility ユーザー ガイド、リリース 7.1

最終更新：2025 年 5 月 7 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



目次

第 1 章	概要 1
	はじめに 1
	サポートされるプラットフォームおよびオペレーティング システム 1
	ハードウェア要件 2

第 2 章	UCS Server Configuration Utility の起動 3
	はじめに 3
	cisco.com から ISO イメージを取得する 3
	Cisco UCS SCU のブート 4
	vKVM マップ済みの vDVD の使用 4
	Cisco FlexMMC vDVD の使用 5
	CIMC マップ済みの vDVD の使用 10
	物理メディアの使用 12
	ネットワーク ブート サポートの使用 12
	Cisco UCS SCU を終了する 13

第 3 章	UCS Server Configuration Utility のユーザー インターフェイスについて 15
	はじめに 15
	ライセンス契約 15
	Cisco UCS SCU GUI ホーム ページ 15
	ナビゲーション ウィンドウ 16
	ツールバー 17

第 4 章	オペレーティング システムのインストール 19
-------	--------------------------------

はじめに	19
Linux サーバー オペレーティング システムのインストール	20
Windows Server オペレーティング システムのインストール	23
ESXi のインストール	26
インストール用ディスクの選択	27
ネットワーク設定	27

第 5 章

シャーシの表示	29
サーバヘルスの表示	29
全般的な詳細の表示	30
CPU の詳細の表示	31
メモリの詳細の表示	32
PCI の詳細の表示	33
ネットワークの詳細の表示	34
グラフィックスの詳細の表示	35
ストレージの詳細の表示	36
電源の詳細の表示	39

第 6 章

タスク サマリーの表示	41
タスク サマリーの表示	41

第 7 章

非双方向オペレーティング システムのインストール	43
非双方向オペレーティング システムのインストール	43
PXE、iPXE、HTTP、および HTTPS からのネットワーク ブートのサポート	44
nwboot.cfg ファイルの変更	44
niscu.cfg ファイルの変更	52
Modifying conf_file の変更	60
OS 展開を開始するための Python スクリプトの実行	63
コマンドを使用したオペレーティング システムのインストール	64
niscu.cfg ファイルの例	68
conf_file および niscu.cfg ファイルの例	70

第 8 章

RAID レベルの構成 73

RAID 設定 73

ストレージの設定 73

物理ディスク領域 74

論理ディスク領域 75

RAID アレイの作成 76

単一レベル RAID の構成 76

ネストされた RAID の構成 77



第 1 章

概要

- [はじめに \(1 ページ\)](#)
- [サポートされるプラットフォームおよびオペレーティングシステム \(1 ページ\)](#)
- [ハードウェア要件 \(2 ページ\)](#)

はじめに

Cisco UCS サーバー構成ユーティリティ (Cisco UCS SCU) は、サーバー上のオペレーティングシステムのインストールを管理するのに役立つアプリケーションです。このユーティリティは、単一のアプリケーションから OS を簡単にセットアップするのに役立ちます。

Cisco UCS SCU を使用すると、特定のサーバーにオペレーティングシステムとその関連ドライバをインストールしてサポートできます。

リリース 6.3 以降では、既存の vMedia ブートメディアとともに、HTTP/HTTPS、PXE、iPXE などのネットワークを介して Cisco UCS SCU ISO ブートをインストールできます。さまざまなネットワーク ブート オプションの詳細については、「[PXE、iPXE、HTTP、および HTTPS からのネットワークブートのサポート \(44 ページ\)](#)」を参照してください。

リリース 7.1 (1.240100) 以降では、Cisco UCS SCU が提供するオプションが変更されています。詳細については、「[UCS Server Configuration Utility のユーザーインターフェイスについて \(15 ページ\)](#)」を参照してください。

サポートされるプラットフォームおよびオペレーティングシステム

サポートされるプラットフォームおよびオペレーティングシステム

サポートされているプラットフォームとオペレーティングシステムの詳細については、Intersight OS インストールで Cisco UCS SCU を使用する場合は [Intersight OS インストールの概要のドキュメント](#) を参照してください。Cisco UCS SCU をスタンドアロンユーティリティとして使用する

場合は、Cisco UCS サーバー構成ユーティリティの関連するリリース ノートを参照してください。

ハードウェア要件

次に、Cisco UCS SDU の最低ハードウェア要件を示します。

- CD-ROM ドライブ：Cisco UCS SDU を起動し、実行するためには、USB CD/DVD-ROM ドライブが必要です。UCS-SCU を起動するために、CIMCKVM、CIMC vMedia で仮想メディア オプションを使用することも使用できます。
- マウス：一部の機能では、ナビゲーション用に標準マウス（PS/2 または USB）が必要です。
- RAM：最低 4 GB の RAM。使用可能な RAM が最低推奨値より小さい場合、Cisco UCS SCU は適切に機能しません。
- ネットワーク アダプタ：support.cisco.com からの OS ドライバのダウンロードなど、一部のオプション機能にはネットワーク アクセスが必要です。任意の単一のオンボード NIC アダプタ接続がサポートされます。



(注) RAID カード：RAID 構成および OS のインストールは、選択されたコントローラでサポートされます。



第 2 章

UCS Server Configuration Utility の起動

- [はじめに](#) (3 ページ)
- [cisco.com から ISO イメージを取得する](#) (3 ページ)
- [Cisco UCS SCU のブート](#) (4 ページ)
- [Cisco UCS SCU を終了する](#) (13 ページ)

はじめに

Cisco UCS SCU は、64 ビット Linux カーネルに基づくブート可能イメージです。シスコのラック サーバーで RAID 論理ボリュームの構成や、オペレーティング システムのインストールなどの操作を実行できます。これは、一度に1つのサーバーで実行されるように設計されています。

cisco.com から ISO イメージを取得する

サーバーの ISO ファイルを検索するには、次の手順を実行します。

始める前に

この手順を実行するには、有効なシスコのログイン情報が必要です。

手順

ステップ 1 [\[ソフトウェア ダウンロード \(Software Download\)\]](#) に移動します。

(注)

シスコのログイン情報を使用してログインします。

ステップ 2 [\[製品の選択 \(Select a Product\)\]](#) > [\[すべて参照 \(Browse All\)\]](#) をクリックします。

ステップ 3 最初の列で [\[サーバー/ユニファイド コンピューティング \(Servers - Unified Computing\)\]](#) をクリックします。

ステップ 4 中央の列で [UCS C-Series Rack-Mount Standalone Server Software] をクリックします。

ステップ 5 最後のカラムのサーバー モデルの名前をクリックします。

使用可能なソフトウェアのリストを含む新しいページが表示されます。

ステップ 6 [ソフトウェア タイプの選択 (Select a Software Type)] リストで、[Unified Computing System (UCS) サーバー構成ユーティリティ (Unified Computing System (UCS) Server Configuration Utility)] を選択します。

[ソフトウェアのダウンロード (Download Software)] ページが表示され、リリースバージョンおよび Cisco UCS SCU イメージが示されます。

ステップ 7 左側のペインから該当するリリースを選択します。

ステップ 8 右側のペインにある [ダウンロード (Download)] アイコンをクリックします。

ステップ 9 次の画面に進んでライセンス契約に同意し、ISO ファイルを保存する場所を参照します。

Cisco UCS SCU のブート

次のいずれかのオプションを使用して、Cisco UCS SCU アプリケーションを起動できます。

- [vKVM マップ済みの vDVD の使用 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco FlexMMC vDVD の使用 \(5 ページ\)](#)
- [CIMC マップ済みの vDVD の使用 \(10 ページ\)](#)
- [物理メディアの使用 \(12 ページ\)](#)
- [ネットワーク ブート サポートの使用 \(12 ページ\)](#)

vKVM マップ済みの vDVD の使用

始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「[cisco.com から ISO イメージを取得する \(3 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco IMC にログインします。

ステップ 2 右上のメニューから[KVM の起動 (Launch KVM)] をクリックします。

(注)

ブラウザの設定によっては、**KVM サーバー証明書**を受け入れ、KVM ビューアをクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。

ステップ 3 [仮想メディア (Virtual Media)] > [vKVM-Mapped vDVD] を選択します。

[仮想メディアのマップ - CD/DVD] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ISO ファイルを参照して選択し、[オープン (OPEN)]をクリックしてイメージをマウントします。

ステップ 5 [仮想メディアのマップ-CD / DVD] ウィンドウから [マップ ドライブ (Map Drive)]を選択します。

仮想 KVM コンソールに次のメッセージが表示されます。

デバイス「vKVM-Mapped vDVD」にメディアが正常に挿入されました。

ステップ 6 [電源 (Power)] > [システムの電源の投入 (Power Cycle System)]を選択します。

ステップ 7 サーバーが起動したら、**F6** キーを押してブート デバイスを選択します。

ブート選択メニューが表示されます。

ステップ 8 矢印キーを使用して、[vKVM-Mapped DVD] を選択し、[Enter] キーを押します。

サーバーは Cisco UCS SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブのアプリケーションを起動します。

Cisco FlexMMC vDVD の使用

始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「[cisco.com から ISO イメージを取得する \(3 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco IMC にログインします。

ステップ 2 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの [ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。

ステップ 3 [ストレージ (Storage)]メニューで、[Cisco FlexMMC] を選択します。

ステップ 4 [Cisco FlexMMC] ペインの [コピーされたファイル (Files Copied)]領域で、[ファイルのアップロード (Upload Files)]タブをクリックします。

[Cisco FlexMMC のアップロード ファイル (Cisco FlexMMC Upload File)]ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [Cisco FlexMMC のアップロード ファイル (Cisco FlexMMC Upload File)]ダイアログボックスで、次の詳細を入力します：

フィールド	説明
[パーティション (Partition)] ドロップダウン リスト	<p>パーティションのタイプ次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IMC イメージ : Cisco .iso ファイル。 • ユーザ ファイル : 任意の .iso、イメージ、またはその他のファイル形式。 <p>アップロードできるのは 1 つの .iso ファイルのみです。</p> <p>(注) 他のファイル形式を選択した場合、Cisco IMC はファイルをイメージファイルに変換します。その他のファイル形式の場合、ファイルサイズは 10 MB を超えることになるはず。また、変換のために余分なスペースが必要です。</p>
[マウントタイプ (Mount Type)] ドロップダウン リスト	<p>マッピングのタイプです。次のいずれかになります。</p> <p>(注) 選択するマウント タイプの通信ポートがスイッチ上で有効になっていることを確認してください。たとえば、マウントタイプとして CIFS を使用する場合は、ポート 445 (CIFS の通信ポート) がスイッチ上で有効になっていることを確認します。同様に、HTTP、HTTPS、または NFS を選択する場合は、ポート 80 (HTTP の場合)、ポート 443 (HTTPS の場合)、またはポート 2049 (NFS の場合) を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NFS] : ネットワーク ファイル システム。 • [CIFS] : 共通インターネット ファイル システム。 • [WWW(HTTP/HTTPS)] : HTTP ベースまたは HTTPS ベースのシステム。

フィールド	説明
[リモート共有 (Remote Share)] フィールド	マップするイメージの URL。形式は選択した [マウントタイプ (Mount Type)] に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none">• [NFS] : serverip:/share を使用します。• [CIFS] : //serverip/share を使用します。• [WWW(HTTP/HTTPS)] : http[s]://serverip/share を使用します。
[リモートファイル (Remote File)] フィールド	リモート共有に含まれる .iso または .img ファイルの名前と場所。

フィールド	説明
[マウント オプション (Mount Options)] フィールド	

フィールド	説明
	<p>カンマ区切りリストで入力される業界標準のマウントオプション。オプションは選択された [マウントタイプ (Mount Type)] によって異なります。</p> <p>[NFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から 1 つ以上を入力します：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • nolock • noexec • soft • port=VALUE <p>[CIFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • nounix • noserverino • port=VALUE • [Ntlm] : NT LAN Manager (NTLM) セキュリティプロトコル。このオプションは、Windows 2008 R2 および Windows 2012 R2 でのみ使用します。 • vers=VALUE <p>(注) 値の形式は x.x である必要があります</p> <p>[WWW(HTTP/HTTPS)] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次のように入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • noauto <p>(注) 仮想メディアをマウントする前に、Cisco IMC はサーバーに ping を実行することによって、エンドサーバーへの到達可能性の確認を試みます。</p>

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • <code>username=VALUE</code> • <code>password=VALUE</code>
[ユーザ名 (User Name)]フィールド	指定した [マウントタイプ (Mount Type)] のユーザー名 (必要な場合)。
[パスワード (Password)]フィールド	選択されたユーザー名のパスワード (必要な場合)。

ステップ 6 右上のメニューから **[KVM の起動 (Launch KVM)]** をクリックします。

(注)

ブラウザの設定によっては、**KVM サーバー証明書**を受け入れ、KVM ビューアをクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。

ステップ 7 **[電源 (Power)] > [システムの電源の再投入 (ブート) (Power Cycle System (boot))]**

ステップ 8 サーバーが起動したら、**F6** キーを押してブート デバイスを選択します。

ブート選択メニューが表示されます。

ステップ 9 矢印キーを使用して **[Cisco FlexMMC vDVD]** を選択し、**Enter** キーを押します。

サーバーは Cisco UCS SCU イメージを使用して起動し、**[KVM]** タブのアプリケーションを起動します。

CIMC マップ済みの vDVD の使用

始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「[cisco.com から ISO イメージを取得する \(3 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco IMC にログインします。

ステップ 2 **[計算 (Compute)] > リモート管理 (Remote Management)] > [仮想メディア (Virtual media)]** の順に選択します。

ステップ 3 **[仮想メディア (Virtual media)]** タブ > **[現在のマッピング (Current Mappings)]** エリアで、必要なマッピングを確認します。

ステップ 4 右上のメニューから **[KVM の起動 (Launch KVM)]** をクリックします。

(注)

ブラウザの設定によっては、**KVM サーバー証明書**を受け入れ、KVM ビューアをクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。

ステップ 5 [仮想メディア (Virtual Media)] > [CIMC-Mapped vDVD] を選択します。

[仮想メディアのマップ - リムーバブル ディスク (Map Virtual Media - Removable Disk)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [仮想メディアのマップ - リムーバブル ディスク (Map Virtual Media - Removable Disk)] ウィンドウで、次の手順を実行します：

- a) CIMC-mapped デバイスに希望の名前を入力します。
- b) 次のいずれかのプロトコルを選択します：

- NFS
- CIFS
- HTTP/S

デフォルトでは、HTTP/S が選択されています。

- c) ファイルの場所を次の形式で入力してください：

```
[http[s]://server-IP|DNS-name:Port/path-to-file.img
```

- d) ユーザ名とパスワードを入力します。
- e) CIMC マップ デバイスに希望の名前を入力します。
- f) (オプション) [自動再マップ (Auto-remap)] を選択します。

ステップ 7 [Save (保存)] をクリックします。

ステップ 8 [マップ ドライブ (Map Drive)] を選択します。

ホストによってこのメディアが取り出されると、Cisco IMC は自動的にこのデバイスを再マップします。

ステップ 9 ISO ファイルを参照して選択し、[オープン (OPEN)] をクリックしてイメージをマウントします。

次のメッセージが仮想 KVM コンソールに表示されます。

デバイス「CIMC-Mapped vDVD」にメディアが正常に挿入されました。

ステップ 10 [電源 (Power)] > [システムの電源の再投入 (ブート) (Power Cycle System (boot))]

ステップ 11 サーバーが起動したら、**F6** キーを押してブート デバイスを選択します。

ブート選択メニューが表示されます。

ステップ 12 矢印キーを使用して、[CIMC-Mapped vDVD] を選択し、[Enter] キーを押します。

サーバーは Cisco UCS SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブのアプリケーションを起動します。

物理メディアの使用

始める前に

- cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「[cisco.com から ISO イメージを取得する \(3 ページ\)](#)」を参照してください。
- .iso CD を書き込むアプリケーションを使用して .iso CD 作成します。

手順

ステップ 1 USB ポート経由でサーバーに USB DVD ドライブを接続します。

ステップ 2 DVD ドライブに物理メディアを挿入します。

ステップ 3 サーバを再起動し、**F6** キーを押してブート選択メニューを表示します。ブートデバイスとして **CDROM** ドライブを選択します。

サーバーは Cisco UCS SCU イメージを使用して起動し、アプリケーションを開始します。

ネットワーク ブート サポートの使用

前提条件

- PXE のインストールには、少なくとも 2 つのシステムが必要です。
- サーバー：ブート ファイルを提供する DHCP サーバー、TFTP サーバー、HTTP または FTP サーバーを実行しているシステム。理論的には、各サーバーは異なる物理システムで実行できますが、このセクションの手順は、簡単のために、単一のシステムですべてを実行することを前提としています
- クライアント：Cisco UCS SCU ISO を起動しているシステム。インストールが開始されると、クライアントは DHCP サーバーにクエリを実行し、TFTP サーバーからブートファイルを取得します。

PXE レガシー ブート



(注) 次のファイルは、マウントされた Cisco UCS SCU ISO から取得できます：

- initrd
- bzImage
- rootfs.img
- ucs-scu-container-xxx.squash.fs

1. /var/lib/tftpboot ディレクトリの下でのブートローダ Pxelinux.0 をコピーします。
2. /var/lib/tftpboot ディレクトリの下での Pxelinux.cfg をコピーします。
3. /var/lib/tftpboot ディレクトリの下でのマウントされた Cisco UCS SCU ISO から initrd および bzImage ファイルをコピーします。
4. /var/www/html ディレクトリまたは /var/ftp/pub ディレクトリの下での rootfs.img、ucs-scu-container-xxx.squashfs、および ドライバフォルダをコピーします。

PXE UEFI Boot

1. EFI/BOOT ディレクトリに置かれる、抽出した Cisco UCS SCU ISO から /var/lib/tftpboot ディレクトリの下での bootx64.efi をコピーします。
2. /var/www/html ディレクトリまたは /var/ftp/pub ディレクトリの下での rootfs.img、ucs-scu-container-xxx.squashfs、および ドライバフォルダをコピーします。

```
niosscubootmedium=pxe #type of the boot pxe/http/ipxe
```

Cisco UCS SCU を終了する

手順

ステップ 1 ディスク ドライブから .iso ディスクを取り出します。

ステップ 2 右上隅にある [電源サイクル (Power Cycle)] ボタンをクリックします。
ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [電源サイクル (Power Cycle)] オプションをクリックします。



第 3 章

UCS Server Configuration Utility のユーザーインターフェイスについて

- [はじめに \(15 ページ\)](#)
- [ライセンス契約 \(15 ページ\)](#)
- [Cisco UCS SCU GUI ホーム ページ \(15 ページ\)](#)

はじめに

Cisco UCS SCU GUI は、オペレーティング システムのインストールおよび RAID 構成などのタスクを実行できる Web ベースの管理インターフェイスです。

ライセンス契約

UCS-SCU の起動後、最初に表示されるインターフェイスは、エンドユーザー ライセンス契約です。

[承認 (Accept)] ボタンをクリックしてライセンスを承認し、Cisco UCS SCU を起動します。

Cisco UCS SCU GUI ホーム ページ

表 1: Cisco UCS SCU GUI の要素

要素	説明
[ナビゲーション (Navigation)] ペイン	Cisco UCS SCU ユーザー インタフェースの左側に位置します。詳細を参照してください。
アクション > OS のインストール	GUI の右側に表示されます。選択に応じて、異なるページが [OS のインストール (Install OS)] ペインに表示されます。

要素	説明
ストレージの設定	GUI の右側に表示されます。[ナビゲーション (Navigation)] ペインでの選択に応じて、異なるページが [ストレージ構成 (Storage Configuration)] ペインに表示されます。
シャーンの表示：正常性とインベントリ	GUI の右側に表示されます。[ナビゲーション (Navigation)] ペインで選択したタブに応じて、異なるページが [正常性 (Health)] ペインに表示されます。
タスクの概要	GUI の一番下にあります。システムで実行されているタスクの進捗状況と完了ステータスを表示します。

ナビゲーション ウィンドウ

表 2: [Navigation] ペインの要素

要素	説明
アクション：> OS のインストール	<p>完全な無人モードで RHEL、SLES、Windows、Ubuntu、Oracle Linux、Rocky Linux および ESXi オペレーティング システムをインストールします。すべてのオンボード コンポーネントの最新のドライバが、オペレーティング システムのインストール時に Tools and Drivers CD またはその他のサポートされている場所から追加されます。</p> <p>OS インストールの詳細については、「オペレーティング システムのインストール (19 ページ)」を参照してください。</p>
ストレージの構成	<p>サーバーに取り付けられたハード ドライブの RAID ボリュームを構成します。RAID 構成 ページへのリンクが含まれています。</p> <p>ストレージ構成の詳細については、次を「RAID レベルの構成 (73 ページ)」参照してください。</p>

要素	説明
シャーシの表示：正常性とインベントリ	サーバーの全体的な正常性が表示されます（ドライブ、CPU、ネットワーク、ストレージコントローラ、PSU、DIMM）。 詳細については、「 シャーシの表示（29 ページ） 」を参照してください。
タスクの概要	システムで実行されているタスクの進捗状況と完了ステータスを表示します。 詳細については、「 タスク サマリーの表示（41 ページ） 」を参照してください。
Help	表示されたページの状況依存ヘルプを表示するアプリケーションのウィンドウを開きます。

ツールバー

名前	説明
[ヘルプ (Help)] アイコン	クリックして、任意のページからオンラインヘルプを起動します。
[設定 (Settings)] アイコン	[ユーザー設定 (User Preferences)] ダイアログボックスを起動します。 目的のテーマを選択し、[保存 (Save)] をクリックして変更を保存します。
[電源の再投入 (Power Cycle)] アイコン	クリックして、[電源の再投入 (Power Cycle)] ダイアログボックスを起動します。 サーバーの再起動を続行するには、[電源の再投入 (Power Cycle)] をクリックします。



第 4 章

オペレーティング システムのインストール

- [はじめに \(19 ページ\)](#)
- [Linux サーバー オペレーティング システムのインストール \(20 ページ\)](#)
- [Windows Server オペレーティング システムのインストール \(23 ページ\)](#)
- [ESXi のインストール \(26 ページ\)](#)

はじめに

Cisco UCS SCU には、RAID ドライバを含むデバイス ドライバが組み込まれており、追加のドライバ ロード手順や、USB などのデバイスを使用せずに、サポートされる RAID 論理アレイにオペレーティング システムをインストールすることができます。

Cisco UCS SCU は、次の OS のインストールをサポートします：

- 仮想ディスク
- NVMe デバイス
- M.2 デバイス
- JBOD モードのディスク
- SD カード
- SW RAID



(注) これは、Cisco UCS M5、M6、M7、および M8 サーバーでのみ使用できます。



- (注) オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、ウォッチドッグ タイマーを無効にしてください。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも小さい期間に設定されていると、オペレーティングシステムのインストール プロセスは中断されます。このウォッチドッグタイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバーをリブートするか、電源をオフにします。

Linux サーバー オペレーティングシステムのインストール

Linux サーバー OS をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで、**[OS のインストール (Install OS)]** をクリックします。
[オペレーティングシステムのインストール (Install Operating System)] ページにすべての OS インストールのオプションが表示されます。
- ステップ 2** **[全般 (General)]** 領域で、インストールする OS とバージョンを選択します。
- a) **[OS の選択 (Select OS)]** ドロップダウン リストから、対象とする OS を選択します。
ドロップダウン リストには、次のオプションが表示されます。
- Red Hat
 - SuSE
 - Ubuntu
 - Oracle
 - Rocky Linux
- b) **[OS バージョン (OS Version)]** ドロップダウン リストから、該当する Linux バージョンを選択します。
- ステップ 3** **[OS イメージの詳細 (Enter OS Image Details)]** エリアで、以下の詳細を入力します：
- a) OS のインストールに使用する適切なプロトコルを選択します。
vMedia がマッピングされた NFS/CIFS/HTTP/S/CIMC/KVM
- b) ディスクの場所を入力します。
- c) マウントオプションを入力します。
- d) ユーザ名とパスワードを入力します。

- e) [検証と続行 (Validate & Proceed)] をクリックします。

ステップ 4 [インストール ターゲット (Installation Target)] 領域で、OS をインストールするターゲット ディスクを選択します。

ステップ 5 [ローカルストレージ (Local Storage)] タブで、[物理ドライブ (Physical Drives)] タブまたは [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブを選択します。

- a) [物理ドライブ (Physical Drives)] タブで目的の物理ドライブを選択します。

適切なディスクを選択できるようにし、OS のインストールを続行できるように、[物理ドライブ (Physical Drives)] タブに次のフィールドが表示されます。

名前	説明
名前	物理ドライブの名前。
サイズ(GiB)	物理ドライブのサイズ。
デバイス ノード (Device Node)	デバイス ノードの詳細。
シリアル番号 (Serial Number)	物理ドライブのシリアル番号。

- b) [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブで目的の仮想ドライブを選択します。

[仮想ドライブ (Virtual Drives)] に次のフィールドが表示されます。

名前	説明
VD ID	仮想ドライブの ID。
名前	仮想ドライブの名前。
コントローラのスロット	コントローラ スロットの詳細
サイズ(GiB)	仮想ドライブのサイズ。
デバイス ノード (Device Node)	デバイス ノードの詳細。

ステップ 6 [SAN ストレージ (SAN Storage)] タブで、[iSCSI] タブまたは [ファイバチャネル (Fibre Channel)] タブを選択します。

- a) [iSCSI] タブには、以下のような詳細を入力します。

名前	説明
デバイス ノード (Device Node)	デバイス ノードの詳細。
イニシエータ MAC	イニシエータ MAC アドレス。
ターゲット IQN	IQN フォーマットでのターゲットの名前。
LUN	ブート イメージの場所に対応する LUN ID。

名前	説明
サイズ(GiB)	ターゲット LUN のサイズ。

b) [ファイバチャネル (Fibre Channel)] タブで、次の詳細を入力します。

名前	説明
デバイス ノード (Device Node)	デバイス ノードの詳細。
ホスト WWPN	バインドに関連付けるホスト ワールドワイドポート名。
LUN	ブートイメージの場所に対応する LUN ID。
サイズ(GiB)	ターゲット LUN のサイズ。

(注)

[レビューしてインストール (Review and Install)] オプションを選択できます。

[概要 (Summary)] ページが表示され、インストールの次のステップでフィールドのデフォルト値が示されます。

ステップ 7 [基本構成 (Basic Configuration)] 領域では、次のことを行ってください。

1. [キーボード (Keyboard)] ドロップダウンリストから、該当する言語を選択します。
2. [タイムゾーン (Timezone)] ドロップダウン リストから該当するタイムゾーンを選択します。
3. [言語 (Language)] ドロップダウン リストから、該当する言語を選択します。

ステップ 8 [パッケージの選択 (Package Selection)] 領域で、該当するパッケージを選択します。

ステップ 9 [ネットワークの追加 (Add Network)] エリアで、次の詳細を入力します。

1. [IPv4 設定 (IPv4 Settings)] または [IPv6 設定 (IPv6 Settings)] タブを選択します。
2. IPv4 または IPv6 を有効にするには、適切なトグルボタンを選択します。
これらのタブには、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する MAC アドレス、リンク ステータス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNSが表示されます。
3. ネットワーク設定値のいずれかを編集するには、対応する行と列をダブルクリックします。
4. フィールドを編集したら、**Enter** を押します。

ステップ 10 [ドライバの選択 (Driver Selection)] エリアで、テーブルから、インストールする必要のあるドライバのチェック ボックスをオンにします。

ステップ 11 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 12 [インストール (Install)] をクリックします。

[OS のインストール (OS Installation)] ウィンドウに次のメッセージが表示されます。

OS のインストールを続行しますか。

警告: OS インストールにより、ディスクの内容が削除されます。続行する前にバックアップを作成してください。

OSのインストールを続行するには、ホストの電源を再投入する必要があります。

[インストール後の電源の再投入] チェックボックスは、デフォルトで有効になっています。

ステップ 13 [続行 (Proceed)] をクリックします。

インストールが開始されると、[タスクの概要 (Task Summary)] ページにタスクが作成されます。詳細については、[タスク サマリーの表示 \(41 ページ\)](#) を参照してください。

Windows Server オペレーティングシステムのインストール

Windows Server OS をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左側のナビゲーションペインで、[オペレーティングシステムのインストール (Install Operating System)] をクリックします。

[オペレーティングシステムのインストール (Install Operating System)] ページにすべての OS インストールのオプションが表示されます。

ステップ 2 [全般 (General)] エリアで、インストールする OS とバージョンを選択します。

- [OS の選択 (Select OS)] ドロップダウンリストから、[Windows] を選択します。
- [OS バージョン (OS Version)] ドロップダウンリストから、該当する Windows バージョンを選択します。

ステップ 3 [OS イメージの詳細 (Enter OS Image Details)] エリアで、以下の詳細を入力します：

- 次のうちから、OS のインストールに使用する適切なプロトコルを選択します：
NFS / CIFS / HTTP/S/ CIMC/KVM Mapped vMedia
- ディスクの場所を入力します。
- マウント オプションを入力します。
- ユーザ名とパスワードを入力します。
- [検証と続行 (Validate & Proceed)] をクリックします。

ステップ 4 [インストール ターゲット (Installation Target)] エリアで、OS をインストールするターゲット ディスクを選択します。

ステップ 5 [ローカルストレージ (Local Storage)] タブで、[物理ドライブ (Physical Drives)] タブまたは [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブを選択します。

- a) [物理ドライブ (Physical Drives)] タブに、次の詳細が表示されます。

名前	説明
名前	物理ドライブの名前。
サイズ (GiB)	物理ドライブのサイズ。
デバイス ノード (Device Node)	デバイス ノードの詳細。
シリアル番号 (Serial Number)	物理ドライブのシリアル番号。

- b) [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブに、次の詳細を入力します。

名前	説明
VD ID	仮想ドライブの ID。
名前	仮想ドライブの名前。
コントローラのスロット	コントローラのスロット。
Size (GiB)	仮想ドライブのサイズ。
デバイス ノード (Device Node)	デバイス ノードの詳細。

- ステップ 6 [SAN ストレージ (SAN Storage)] タブで、[iSCSI] タブまたは [ファイバ チャネル (Fibre Channel)] タブを選択します。

- a) [iSCSI] タブには、以下のような詳細を入力します。

名前	説明
デバイス ノード (Device Node)	デバイス ノードの詳細。
Initiator MAC	イニシエータ MAC アドレス。
ターゲット IQN	IQN フォーマットでのターゲットの名前。
LUN	ブート イメージの場所に対応する LUN ID。
Size (GiB)	ターゲット LUN のサイズ。

- b) [ファイバ チャネル (Fibre Channel)] タブには、次の詳細を入力します。

名前	説明
デバイス ノード (Device Node)	デバイス ノードの詳細。
ホスト WWPN	バインドに関連付けるホスト ワールドワイドポート名。

名前	説明
LUN	ブート イメージの場所に対応する LUN ID。
サイズ (GiB)	ターゲット LUN のサイズ。

(注)

ここで [レビューしてインストール (Review and Install)] オプションを選択できます。

[概要 (Summary)] ページが表示され、インストールの次のステップで使用する、フィールドのデフォルト値が示されます。

ステップ 7 [基本構成 (Basic Configuration)] エリアでは、次のことを行ってください。

1. [キーボード (Keyboard)] ドロップダウンリストから、該当する言語を選択します。
2. [タイムゾーン (Timezone)] ドロップダウンリストから該当するタイムゾーンを選択しします。
3. [言語 (Language)] ドロップダウン リストから、該当する言語を選択します。
4. [組織 (Organization)] フィールドに、管理者の組織名を入力します。
5. [ワークグループ (Workgroup)] フィールドにワークグループ名を入力します。
6. [ホスト名 (Host Name)] フィールドに Windows ホストを入力します。
7. [自動ログオン (Auto Logon)] ドロップダウンリストから、[オン (ON)] または [オフ (OFF)] を選択します。
8. [プロダクト キー (Product key)] フィールドに、OS ライセンス キーを入力します。

ステップ 8 [パッケージの選択 (Package Selection)] エリアで、該当するパッケージを選択します。

ステップ 9 [ネットワークの追加 (Add Network)] エリアで、次の詳細を入力します。

1. [IPv4 設定 (IPv4 Settings)] または [IPv6設定 (IPv6 Settings)] タブを選択します。
2. IPv4 または IPv6 を有効にするには、適切なトグルボタンを選択します。
これらのタブには、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する MAC アドレス、リンク ステータス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNSが表示されます。
3. ネットワーク設定値のいずれかを編集するには、対応する行と列をダブルクリックします。
4. フィールドを編集したら、[Enter] を押します。

ステップ 10 [ドライバの選択 (Driver Selection)] エリアで、テーブルから、インストールする必要のあるドライバのチェック ボックスをオンにします。

ステップ 11 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 12 [インストール (Install)] をクリックします。

[OS のインストール (OS Installation)] ウィンドウに次の意味のメッセージが表示されます：

OSのインストールを続行しますか？

警告：OS のインストールにより、ディスクの内容が削除されます。続行する前にバックアップを作成してください。

OSのインストールを続行するには、ホストの電源を遮断してから再投入する必要があります。

[インストール後の電源の再投入 (Power cycle post installation)] チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

ステップ 13 [続行 (Proceed)] をクリックします。

インストールが開始されると、[タスクのサマリー (Task Summary)] ページにタスクが作成されます。詳細については、「[タスク サマリイの表示 \(41 ページ\)](#)」を参照してください。

ESXi のインストール

ESXi のインストール オプションでは、オペレーティング システムをインストールしてデフォルト設定をカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 左側のナビゲーション ペインで、[OS のインストール (OS Installation)] をクリックします。

[OS のインストール (OS Installation)] ページにすべての OS インストールのオプションが表示されます。

ステップ 2 [OS カテゴリ (OS category)] ドロップダウンリストから、[VMware] を選択します。

ステップ 3 [OS バージョン (OS Version)] ドロップダウンリストから、該当する ESXi バージョンを選択します。

ステップ 4 [インストール用のディスク (Installing Disk)] ドロップダウンリストから、ディスクの保存場所を選択します。

ステップ 5 (オプション) [レビューしてインストール (Review & Install)] を選択し、詳細を確認してインストールを続行します。

ステップ 6 [インストール (Install)] をクリックして、インストールを続行します。

ステップ 7 (オプション) [カスタム インストール (Custom Install)] ボタンをクリックします。

選択した ESXi バージョンの [VMware ESXi のカスタム インストール (VMware ESXi Custom Install)] ページが表示されます。

ステップ 8 [VMware ESXi のカスタム インストール (VMware ESXi Custom Install)] ページで次の手順を実行します：

a) [基本構成 (Basic Configuration)] エリアでは、次のことを行ってください：

1. [キーボード (Keyboard)] ドロップダウンリストから、該当する言語を選択します。

デフォルトでは英語に設定されています。

2. [ルート パスワード (Root Password)] フィールドに、ルート パスワードを入力します。

3. [ルートパスワードの確認 (Confirm Root Password)] フィールドにルートパスワードを再入力します。
 4. [プロダクトキー (Product key)] フィールドに、プロダクトライセンス キーを入力します。
- b) [インストール用ディスク (Installation Disk)] エリアでは、「[インストール用ディスクの選択 \(27 ページ\)](#)」の手順を実行します。
 - c) [ネットワーク設定 (Network Settings)] エリアでは、「[ネットワーク設定 \(27 ページ\)](#)」の手順を実行します。

インストール用ディスクの選択

[インストール用ディスク (Installation Disk)] エリアで、次の手順を実行します：

手順

使用するインストール用ディスクのラジオ ボタンを選択します。

ネットワーク設定

ネットワーク設定では、インストール時にオペレーティングシステムによって検出されるオンボードネットワークアダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、Cisco IMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティングシステムと Cisco IMC には、異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワークアダプタがネットワーク インターフェイス カラムに一覧表示されます。使用するオペレーティングシステムによって、オペレーティングシステムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。



- (注) アクティブなネットワークのうち1つだけを構成する必要があり、このネットワークインターフェイスが ESXi 管理ネットワークになります。

[ネットワーク設定 (Network Settings)] エリアで、次の設定を行います：

手順

ステップ 1 [IPv4 設定 (IPv4 Settings)] または [IPv6 設定 (IPv6 Settings)] タブを選択します。

これらのタブには、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する MAC アドレス、リンク ステータス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNSが表示されます。

ステップ 2 ネットワーク設定値のいずれかを編集するには、対応する行と列をダブルクリックします。
これにより、編集するフィールドがアクティブになります。

ステップ 3 フィールドを編集して、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 (オプション) [レビューしてインストール (Review & Install)] を選択し、詳細を確認してインストールを続行します。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックしてインストールを続行します。



第 5 章

シャーシの表示

- サーバヘルスの表示 (29 ページ)
- 全般的な詳細の表示 (30 ページ)
- CPU の詳細の表示 (31 ページ)
- メモリの詳細の表示 (32 ページ)
- PCI の詳細の表示 (33 ページ)
- ネットワークの詳細の表示 (34 ページ)
- グラフィックスの詳細の表示 (35 ページ)
- ストレージの詳細の表示 (36 ページ)
- 電源の詳細の表示 (39 ページ)

サーバヘルスの表示

この手順では、[正常性の概要 (**Health Summary**)] ページに表示される全体的なサーバーの正常性の概要について説明します。

手順

[シャーシ (**Chassis**)] > [概要 (**Overview**)] に移動します。

次の情報が表示されます。

エリア	説明
[サーバ (Server)] エリア	サーバのステータスを表示します。
[CPU] エリア	CPU の数とステータスを表示します。
[DIMM] 領域	サーバーで使用可能な DIMM の合計数を表示します。また、装着済みと未装着の DIMM スロットの数とステータスも表示されます。

エリア	説明
[PSU] 領域	サーバで使用されている PSU の数と各 PSU のステータスを表示します。
[Storage Controller] 領域	使用されているストレージコントローラの数とそれぞれのステータスを表示します。
[Network (ネットワーク)] 領域	サーバで使用されているネットワークカードの数とそれぞれのステータスを表示します。
[Drives] 領域	サーバーで使用可能なドライブの合計数を表示します。また、ドライブのステータスも表示されます。

一般的な詳細の表示

手順

ステップ 1 [シャーシ (Chassis)] > [インベントリ (Inventory)] に移動します。

ステップ 2 [全般 (General)] タブを選択します。

次の情報が表示されます。

表 3: 詳細エリア

名前	説明
ヘルス	サーバーの全体的なステータスを表示します。
モデル	サーバー モデルが表示されます。
シリアル番号	サーバのシリアル番号。
ファームウェア バージョン	サーバーで実行されている現在のファームウェアバージョン。
BIOSのファームウェアバージョン	サーバーで実行されている現在のBIOSバージョン。
シャーシタイプ	サーバーのタイプ (ラック、ブレード)。
製造元	サーバのメーカー。

表 4: プロパティ領域

名前	説明
サーバー名 (Server Name)	Cisco UCS サーバーの名前。
前面 (Front) / 上部 (Top) / 背面 (Rear) ボタン	サーバーの正面図、上面図、および背面図を表示します。 (注) 図は説明のみを目的としています。実際のサーバーの外見とは異なる場合があります。
CPU	サーバーの CPU 数。
コア	CPU のコア数。
有効なコア	コア合計のうち、有効になっているコア数。
スレッド	CPU が同時に処理できる最大スレッド数。
[PCI Adapters]	サーバーに存在する PCIe アダプタの数。
CPU キャパシティ = ソケット数 X 有効化されたコア X 速度(GHz)。	CPU の合計キャパシティ。CPU キャパシティは、ソケット数、有効なコア数、および CPU の速度を掛けて計算されます。
メモリ容量(GiB)	すべての DIMM が完全に機能している場合に、サーバーで使用できるメモリの合計量 (ギビバイト単位)。
ストレージ キャパシティ (GiB)	サーバーの合計ストレージキャパシティ (ギビバイト単位)。
ディスク	サーバー内のストレージドライブの数。
UUID	サーバーを識別する数字または英数字の文字列。

CPU の詳細の表示

[CPU] タブには、サーバーに取り付けられている CPU の詳細が表示されます。

手順

ステップ 1 [シャーシ (Chassis)] > [インベントリ (Inventory)] に移動します。

ステップ 2 [CPU] タブを選択します。

次の情報が表示されます。

名前	説明
モデル (Model)	CPU の製造元とモデルの名前。
ヘルス	全体的な CPU の正常性。
有効化されたコア数	全コアのうち有効化されているものの数。
コア数	CPU のコアの合計数。
スレッド数	CPU が同時に処理できる最大スレッド数。
最高速度 (Mhz)	CPU の速度 (メガヘルツ単位)。
ベンダー	CPU のメーカー。
署名	CPU の署名情報。

メモリの詳細の表示

[メモリ (Memory)] タブには、サーバーに取り付けられている DIMM の詳細が表示されます。

手順

ステップ 1 [シャーシ (Chassis)] > [インベントリ (Inventory)] に移動します。

ステップ 2 [メモリ (Memory)] タブを選択します。

次の情報が表示されます。

名前	説明
[名前 (Name)] カラム	サーバー内の配置に応じた DIMM の名前。
[ステータス (Status)] カラム	特定のスロットの DIMM の有無を表示します。

名前	説明
[ヘルス (Health)] カラム	DIMM の全体的な正常性ステータス。
[ロケータ LED (Locator LED)] カラム	DIMM スロットが装着されている場合は、ロケータ LED の情報を表示します。 (注) DIMM スロットが空の場合は適用されません。
[キャパシティ (Capacity) (MiB)] カラム	DIMM のキャパシティ (メビバイト単位) 。
[チャンネルタイプ (Channel Type)] カラム	メモリ モジュールがマザーボードのメモリ コントローラと通信するアーキテクチャのタイプ。
[速度 (MHz) (Speed (MHz))] カラム	DIMM 速度 (メガヘルツ単位) 。
[製造元 (Manufacturer)] カラム	DIMM の製造元。
[Serial Number] カラム	DIMM のシリアル番号。
[アセット タグ (Asset Tag)] カラム	デフォルトでは、新しいサーバーのアセットタグは [不明 (Unknown)] として表示されます。 [アセット タグ (Asset Tag)] フィールドを更新する場合は、次のガイドラインに従ってください。 <ul style="list-style-type: none">• [アセット タグ (Asset Tag)] フィールドの最大文字数は 32 文字です。• [アセット タグ (Asset Tag)] には、次の特殊文字を含めることはできません。<ul style="list-style-type: none">• &• !
[部品番号 (Part Number)] カラム	ベンダーによって割り当てられた DIMM の部品番号。
[データ幅 (Data Width)] カラム	メモリ モジュール インターフェイスのビット数。

PCI の詳細の表示

[PCI] タブには、サーバーに取り付けられている PCIe カードの詳細が表示されます。

手順

ステップ1 [シャーシ (Chassis)] > [インベントリ (Inventory)] に移動します。

ステップ2 [PCI] タブを選択します。
次の情報が表示されます。

名前	説明
[名前 (Name)]	PCIe カードの名前。
[スロット (Slot)]	PCIe カードが取り付けられているサーバー スロット。
[ベンダー ID (Vendor ID)]	ベンダーによって割り当てられたアダプタ ID。
[サブベンダー ID (Sub Vendor ID)]	ベンダーによって割り当てられたセカンダリ アダプタ ID。
[デバイス ID (Device ID)]	ベンダーによって割り当てられたデバイス ID。
[サブ デバイス ID (Sub Device ID)]	ベンダーによって割り当てられたセカンダリ デバイス ID。
[バス番号 (Bus Numbers)] カラム	エンドポイントが接続されている PCIe スイッチを識別するためのバス番号。

ネットワークの詳細の表示

[ネットワーク (Network)] タブには、サーバーに取り付けられているネットワーク アダプタの詳細が表示されます。

手順

ステップ1 [シャーシ (Chassis)] > [インベントリ (Inventory)] に移動します。

ステップ2 [ネットワーク (Network)] タブを選択します。
次の情報が表示されます。

名前	説明
[Name] カラム	ネットワーク アダプタの名前。

名前	説明
[Health] カラム	ネットワークアダプタの全体的な正常性ステータス。
[スロット (Slot)] カラム	ネットワークアダプタが装着されているスロット。
[Uplink Port] カラム	ネットワークアップリンクに使用されるポートID。
[Vendor] カラム	ネットワーク アダプタのベンダー。
[リンクステータス (Status)] カラム	ネットワーク アダプタとネットワーク メディア間の物理接続の現在の状態を示します。
[MAC Address] カラム	ネットワーク アダプタの MAC アドレス。

グラフィックスの詳細の表示

[グラフィックス (Graphics)] タブには、サーバーに取り付けられているグラフィック処理ユニット (GPU) カードの詳細が表示されます。

手順

ステップ 1 [シャーシ (Chassis)] > [インベントリ (Inventory)] に移動します。

ステップ 2 [グラフィックス (Graphics)] タブを選択します。

次の情報が表示されます。

名前	説明
[名前 (Name)] カラム	GPU カードの名前。
[スロット (Slot)] カラム	GPU カードが取り付けられているスロット。
[ベンダー (Vendor)] カラム	GPU カードのベンダー。
[シリアル番号 (Serial Number)] カラム	GPU カードのシリアル番号

ストレージの詳細の表示

[ストレージ (Storage)] タブには、各ストレージコントローラと関連するドライブの詳細が表示されます。

手順

ステップ1 [シャーシ (Chassis)] > [インベントリ (Inventory)] に移動します。

ステップ2 [ストレージ (Storage)] タブを選択します。

[ストレージ (Storage)] タブには、各ストレージコントローラと関連するドライブの詳細が表示されます。

(注)

[すべて展開 (Expand All)] ボタンを使用すると、すべてのストレージコントローラと関連するドライブを展開ビューで表示できます。[すべて折りたたむ (Collapse All)] ボタンを使用すると、ストレージコントローラのリストを表示できます。

名前	説明
物理ドライブアイコン	RAID コントローラが制御している物理ドライブの数を表示します。
仮想ドライブアイコン	RAID コントローラが制御している仮想ドライブの数を表示します。
[ヘルス (Health)]	RAID コントローラの正常性ステータスが表示されます。
スロット	RAID コントローラが取り付けられているスロット。
Firmware Version	ストレージコントローラで実行されている現在のファームウェアバージョン。
シリアル番号	ストレージコントローラのシリアル番号。
Battery Backup Unit	予期しない電力損失が発生した場合に、ストレージコントローラのキャッシュメモリに提供されるバッテリーバックアップ。
ブートローダのバージョン	ストレージコントローラの起動プロセスを開始するファームウェアのバージョン。
Physical Drives	
[Name] カラム	デバイスの名前。

名前	説明
[Vendor] カラム	ドライブのベンダー。
[Health] カラム	ドライブの全体的な正常性ステータス。
[プロトコル (Protocol)] カラム	ドライブとストレージコントローラの間で使用される標準の通信方式を示します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • SAS • SATA
[メディア タイプ (Media Type)] カラム	物理ドライブのタイプ。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • HDD • SSD
[スロット (Slot)] カラム	ドライブが取り付けられているスロット。
[Model] カラム	ドライブのモデル番号。
[Serial Number] カラム	ドライブのシリアル番号。
[Capacity (GiB) (容量 (GiB))] カラム	ドライブのキャパシティ (ギビバイト単位)。
[キャパシティ (Capacity)] カラム	ドライブのキャパシティ (バイト単位)。
[State] カラム	ドライブの構成状態。
[Revision] カラム	ドライブにインストールされている現在のファームウェアバージョン。
[サービス ラベル (Service Label)] カラム	ドライブのサービス ラベル番号。
仮想ドライブ	
[ID] カラム	ドライブの一意の ID。
[Name] カラム	デバイスの名前。
[State] カラム	ドライブの構成状態。
[RAID タイプ (RAID Type)] カラム	適用される RAID 構成のタイプ。
[ストリップ サイズ (Strip Size)] カラム	RAID コントローラが同時に書き込むデータ セグメントのサイズ。
[Capacity (GiB) (容量 (GiB))] カラム	ドライブのキャパシティ (ギビバイト単位)。

名前	説明
[キャパシティ (Capacity)] カラム	ドライブのキャパシティ (バイト単位)。

ステップ 3 [コントローラ (Controller)] エリアには、次の情報が表示されます。

表 5: コントローラ領域

名前	説明
名前 (Name)	コントローラ カードの名前
スロット	ドライブが配置されているサーバスロット情報
Firmware Version	ドライブのファームウェア バージョン
シリアル番号	ベンダーによって割り当てられたシリアル番号
Battery Backup Unit	バッテリーのステータス
ブートローダのバージョン	ブートローダのバージョン

ステップ 4 [物理ドライブ (Physical Drive)] 領域に次の情報が表示されます。

表 6: [Physical Drives] 領域

名前	説明
ベンダー	ベンダーの名前
[ヘルス (Health)]	ドライブの全体的なステータス
プロトコル (Protocol)	プロトコル
メディア タイプ	ドライブがハード ドライブ (HDD) であるか、ソリッドステート ドライブ (SSD) であるか。
スロット	物理ドライブが存在するスロット番号。
モデル (Model)	ドライブのベンダー名。
シリアル番号	ドライブのシリアル番号。
改定	リビジョン
容量 (GiB)	フォーマットに使用された領域も含む、ドライブのキャパシティ (GB 単位)。
[キャパシティ (Capacity) (バイト単位)]	フォーマットに使用された領域を含む、ドライブのキャパシティ (バイト単位)。

名前	説明
ブロックサイズ (バイト)	ブロックサイズ (バイト)
[対応速度 (Gbs) (Capable Speed)]	対応速度 (Gbs)
[動作温度 (°C) (Operating Temperature)]	選択したドライブが選択時点で動作している、ドライブの現在の温度。
[予測障害回数 (Predictive Failure Counts)]	ドライブで障害が発生した可能性があることをコントローラが予測した回数。
[メディア エラー数 (Media Error Counts)]	ドライブが最初に取り付けられた時点、またはホストが再起動された時点から発生したメディアエラーの数。
非強制サイズ(バイト)	強制のために失われた領域を含む容量 (MB 単位) 。
強制サイズ	強制的な丸め処理の実行後の容量 (MB 単位) 。

電源の詳細の表示

[電源 (Power Supply)] タブには、サーバーに取り付けられている電源ユニット (PSU) の詳細が表示されます。

手順

ステップ 1 [シャーシ (Chassis)] > [インベントリ (Inventory)] に移動します。

ステップ 2 [電源 (Power Supply)] タブを選択します。
次の情報が表示されます。

名前	説明
[名前 (Name)] カラム	PSU の名前。
[正常性 (Health)] カラム	PSU の全体的な正常性ステータス。
[電源入力 (ワット) (Power Input (Watts))] カラム	PSU の入力電力 (ワット単位) 。
[電源出力 (ワット) (Power Output (Watts))] カラム	PSU によって供給される最大出力電力 (ワット単位) 。



第 6 章

タスク サマリーの表示

- [タスク サマリーの表示 \(41 ページ\)](#)

タスク サマリーの表示

このページには、進行状況と完了ステータスを含む、システムで実行されているすべてのタスクの詳細が表示されます。

手順

[ナビゲーション (Navigation)] ペイン の [タスク サマリーの概要 (Task Summary)] に移動します。特定のタスクについて、次の情報が表示されます。

名前	説明
詳細	タスクの次の詳細がテーブルの左側の列に表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• 状態• ステータス• タスク ID• 名前• 時間• 開始時刻• 終了時刻

名前	説明
実行フロー	<ul style="list-style-type: none">• タスクの進行状況のステータスが表示されます。• タスクのサブタスクの詳細がタイムスタンプ付きで表示されます。



第 7 章

非双方向オペレーティング システムのインストール

この章は、次の項で構成されています。

- [非双方向オペレーティング システムのインストール \(43 ページ\)](#)
- [PXE、iPXE、HTTP、および HTTPS からのネットワーク ブートのサポート \(44 ページ\)](#)
- [nwboot.cfg ファイルの変更 \(44 ページ\)](#)
- [niscu.cfg ファイルの変更 \(52 ページ\)](#)
- [Modifying conf_file の変更 \(60 ページ\)](#)
- [OS 展開を開始するための Python スクリプトの実行 \(63 ページ\)](#)
- [コマンドを使用したオペレーティング システムのインストール \(64 ページ\)](#)
- [niscu.cfg ファイルの例 \(68 ページ\)](#)
- [conf_file および niscu.cfg ファイルの例 \(70 ページ\)](#)

非双方向オペレーティング システムのインストール

非双方向サーバー構成ユーティリティ (NI-SCU) は、ユーザーの介入なしでオペレーティング システムを展開するのに役立ちます。

NI-SCU を使用してオペレーティング システムをインストールするには、次の手順を実行します：

- `nwboot.cfg` ファイルを変更して、ターゲット サーバー、SCU ISO ファイルの場所、ログ収集の詳細などの情報を含めます。
- `niscu.cfg` 構成ファイルを変更して、ターゲット サーバー、SCU ISO ファイルの場所、ログ収集の詳細などの情報を含めます。詳細については、[niscu.cfg ファイルの変更 \(52 ページ\)](#) および [Modifying conf_file の変更 \(60 ページ\)](#) を参照してください。
- キックスタート インストール用の応答ファイルを準備します。

サンプル応答ファイルについては、「カスタム OS のインストール例」の章を参照してください。

- `os_install-4.2.yc.yyyymmddab.py` スクリプトを実行して、インストールを開始します。
「[OS 展開を開始するための Python スクリプトの実行 \(63 ページ\)](#)」を参照してください。

PXE、iPXE、HTTP、および HTTPS からのネットワーク ブートのサポート

リリース 6.3 以降では、IPv4 および IPv6 を使用して次のネットワークオプションから SCU ネットワークブートを実行できます。

- PXE
- iPXE
- HTTP
- HTTPS

上記のネットワーク ブート オプションは、CIMC vMedia などの既存のブートメディアオプションに加えて使用できます。

Cisco UCS M5、M6、および M7 サーバーで NISCU-XML API および NISCU-Redfish インターフェイスを使用して、上記のネットワーク オプションから Cisco UCS SCU の ISO ブートを実行できます。

リリース 6.3 以降では、HTTP/HTTPS、PXE、および IPXE を使用した非インタラクティブ オペレーティングシステムのインストールでは、最初に `nwboot.cfg` ファイルを構成する必要があります。

nwboot.cfg ファイルの変更

リリース 6.3 以降では、HTTP/HTTPS、PXE、および IPXE を使用した非インタラクティブ オペレーティングシステムのインストールでは、最初に `nwboot.cfg` ファイルを構成する必要があります。

`niscu.cfg` ファイルは以下のセクションから構成されています。

デフォルト

[デフォルト (Default)] セクションは、次のパラメータから構成されます。

表 7: デフォルト セクションのパラメータ

パラメータ	説明
Update_Timeout	Python スクリプトが開始されてからアクティブになるまでの時間 (分単位)。デフォルト値は 240 分です。有効な範囲は 30 ~ 240 分です。

例

```
[defaults]
update_timeout=240
```

SCU リポジトリ

SCU リポジトリ セクションは、次のパラメータから構成されます：

表 8: SCU リポジトリ セクションのパラメータ

パラメータ	説明
BootMedium	SCU ブートをインストールするためのブートメディア。 次のタイプがサポートされます： <ul style="list-style-type: none"> • vmedia • HTTP • FlexMMC • MicroSD • PXE • IPXE



(注) [SCUリポジトリ (**SCU Repository**)] で、それぞれのブートメディアで使用可能なフィールドの詳細については、以下のセクションを参照してください。

表 9: HTTP ブートメディア

パラメータ	説明
ImageRepository	HTTP 共有内の SCU ISO が存在するパス

パラメータ	説明
MACAddress	SCU へのアクティブなネットワーク インターフェイスに割り当てられている MAC アドレス。
PCIEslot	コントローラが配置されている PCIe スロットの名前。
PhysicalPortNumber	物理ポート番号。
IPv4Address および IPv6Address	<p>IPv4 および IPv6 での IP アドレス。</p> <p>IPv4 のパラメータは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AddressOrigin : IPv4 または IPv6 の発信元となるサーバー IP アドレス 値は Static です。 • アドレス : ネットワーク インターフェイスのホスト IP アドレス • ゲートウェイ : IPv4 ゲートウェイ アドレス • サブネットマスク : IPv4 サブネット アドレス • スタティック ネーム サーバー <p>これらは、IPv6 の次のパラメータです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AddressOrigin : IPv4 または IPv6 の発信元となるサーバー IP アドレス 値は Static です。 • アドレス : ネットワーク インターフェイスのホスト IP アドレス • ゲートウェイ : IPv6 ゲートウェイ アドレス • サブネット マスク - IPv6 のプレフィックス長 • スタティック ネーム サーバー

表 10: vMedia ブートメディア

パラメータ	説明
ImageRepository	HTTP 共有内の SCU ISO が存在するパス
TransferProtocol	転送プロトコルのタイプ。
Username	ユーザーのログイン情報。
Password	
MountOptions	マウント オプション。

表 11: PXE ブートメディア

パラメータ	説明
ImageRepository	HTTP 共有内の SCU ISO が存在するパス
MACAddress	SCU へのアクティブなネットワーク インターフェイスに割り当てられている MAC アドレス。
PCIEslot	コントローラが配置されている PCIe スロットの名前。
PhysicalPortNumber	物理ポート番号。
AddressOrigin	IPv4 または IPv6 の起点となるサーバーの IP アドレス 値は DHCP です。

表 12: iPXE ブートメディア

パラメータ	説明
ImageRepository	IPv4 または IPv6 の起点となるサーバーの IP アドレス 値は DHCP です。
MACAddress	SCU へのアクティブなネットワーク インターフェイスに割り当てられている MAC アドレス。
PCIEslot	コントローラが配置されている PCIe スロットの名前。
PhysicalPortNumber	物理ポート番号。

例

```

"BootMedium": {
  "VMEDIA": {
    "ImageRepository": "10.10.10.1/home/nfsshare/iso/scu.iso",
    "TransferProtocol": "nfs",
    "Username": "root",
    "Password": "password",
    "MountOptions": ""
  },
  "HTTP": {
    "ImageRepository": "http://10.10.10.1:80/iso/scu.iso",
    "MACAddress": "70:df:2f:86:af:02",
    "PCIEslot": "L",
    "PhysicalPortNumber": 1,
    "IPv4Address": {
      "AddressOrigin": "Static",
      "Address": "10.104.255.179",
      "Gateway": "10.104.255.129",
      "SubnetMask": "255.255.255.128",
      "StaticNameServer": "64.104.76.247"
    },
    "IPv6Address": {
      "AddressOrigin": "DHCpv6",
      "Address": "fc00:1234::a:b:c:d",
      "PrefixLength": 64,
      "Gateway": "fe80::fe15:b4ff:fe97:90cd",
      "StaticNameServer": "fe80::fe15:b4ff:fe97:90cd"
    }
  },
  "FLEXMMC": {
    "ImageRepository": "scu.iso"
  },
  "MICROSD": {},
  "PXE": {
    "ImageRepository": "ftp://10.104.255.224/pub/scu",
    "MACAddress": "70:df:2f:86:af:02",
    "PCIEslot": "L",
    "PhysicalPortNumber": 1,
    "IPv4Address": {
      "AddressOrigin": "DHCP"
    }
  },
  "IPXE": {
    "ImageRepository": "http://10.10.10.1/iso/scu.iso",
    "MACAddress": "70:df:2f:86:af:02",
    "PCIEslot": "L",
    "PhysicalPortNumber": 1
  }
}

```

OSの詳細

[OSの詳細 (OS Details)] セクションで、SCU ISO イメージが存在する共有の OS リポジトリとターゲット OS の詳細を入力します。

[OSの詳細 (OS Details)] セクションは、OS リポジトリ、vMedia ブートメディア、およびターゲット OS の次のパラメータから構成されます。

表 13: OS リポジトリ

パラメータ	説明
MediaType	メディアのタイプ。 デフォルト値は Local です。
BootMedium	SCU ブートをインストールするためのブートメディア。 デフォルトでは、値は vMedia です。

表 14: vMedia ブートメディア

パラメータ	説明
ImageRepository	SCU ISO ブートイメージリポジトリの場所。
Transfer Protocol	転送プロトコルのタイプ。
Username	ユーザーのログイン情報。
Password	
Mount Options	マウント オプション。

例

```

"OSDetails": {
  "OSRepository": {
    "MediaType": "Local",
    "BootMedium": {
      "VMEDIA": {
        "ImageRepository":
"10.10.10.1/home/nfsshare/iso/rhel/RHEL-8.5.0-20211013.2-x86_64-dvd1.iso",
        "TransferProtocol": "nfs",
        "Username": "root",
        "Password": "password",
        "MountOptions": ""
      }
    }
  },
  "TargetOS": {
    "OSName": "rhel8u5x64",
    "OSEdition": "None"
  }
}

```

ターゲット ディスク

[ターゲットディスク (Target Disk)] セクションで、ディスクの詳細のタイプを指定します。

[ターゲットディスク (Target Disk)] セクションは、次のパラメータから構成されます：

表 15: ターゲット ディスク

パラメータ	説明
PHYSICALDISK	ドライブ シリアル番号を入力します。
VIRTUALDISK	次の詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • ストレージコントローラのスロット ID。 • 仮想ドライブ番号
DISKNAME	OS ドライブの詳細を入力します。
VIRTUALDRIVENAME	仮想ドライブ名を入力します。
ONBOARDSATAM2SSD	SATAM2SSD のスロットの詳細を入力します。
M2SWVDNAME	[M2 SW RAID Name] の詳細を入力します。
FC	次の詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • HostWWPN • TargetWWPN • LUN
ISCSI	次の詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • MACAddress • プライマリターゲット名 • プライマリ LUN

例

```
"TargetDisk": {
  "PHYSICALDISK": {
    "DriveSerialNumber": "06VSGVVB"
  },
  "VIRTUALDISK": {
    "StorageControllerSlotID": "MRAID",
    "VirtualDriveNumber": 0
  },
  "DISKNAME": {
    "OSDrive": "/dev/sdk"
  },
  "VIRTUALDRIVENAME": {
    "VirtualDriveName": "Hypervisor"
  },
  "ONBOARDSATAM2SSD": {
    "SATAM2SSD": "slot1"
  },
  "M2SWVDNAME": {
    "M2SWRAIDName": "RAID0"
  }
}
```

```

    },
    "FC": {
      "HostWWPN": "10:00:54:88:DE:A7:32:6F",
      "TargetWWPN": "50:06:01:68:3E:A0:62:22",
      "Lun": 200
    },
    "ISCSI": {
      "MACAddress": "70:DF:2F:86:AE:FD",
      "PrimaryTargetName":
"iqn.2001-05.com.equallogic:0-af1ff6-082b3ebe6-cf2005780845d665-iqn.siva-25.com",
      "PrimaryLUN": 1
    }
  }
}

```

リモート ログ

[リモートログ (Remote Log)] セクションで、インストールログが保存される共有の IP アドレスとアクセスの詳細を入力します。

[リモートログ (Remote Log)] セクションは、次のパラメータから構成されます。

表 16: [リモートログ (Remote Log)] セクションのパラメータ

パラメータ	説明
ImageRepository	インストール中にログファイルが生成される共有の IP アドレス。
TransferProtocol	共有へのアクセスに使用されるプロトコルタイプ。次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP
Username Password	共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。

例

```

"RemoteLog": {
  "ImageRepository": "10.10.10.10/home/nfstest/scu.log",
  "TransferProtocol": "scp",
  "Username": "root",
  "Password": "John123"
}

```

応答ファイル

[応答ファイル (Answer File)] セクションで、応答ファイルがある共有のアクセスの詳細を入力します。応答ファイルには、OS 展開に関する詳細が含まれています。

例

```

"AnswerFile": {
  "ImageRepository": "10.10.10.10/home/nfstest/answerfile",
  "TransferProtocol": "scp",
}

```

```
"Username": "root",
"Password": "John123"
```

表 17: 応答ファイルセクションのパラメータ

パラメータ	説明
ImageRepository	インストール中にログファイルが生成される共有の IP アドレス。
TransferProtocol	共有へのアクセスに使用されるプロトコルタイプ。次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP
Username Password	共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。

niscu.cfg ファイルの変更

リリース 6.3 以降では、HTTP/HTTPS、PXE、および IPXE を使用した非インタラクティブオペレーティングシステムのインストールでは、最初に `nwboot.cfg` ファイルを構成する必要があります。

vMedia を使用した非インタラクティブオペレーティングシステムのインストールでは、最初に `niscu.cfg` ファイルを構成する必要があります。



(注) vMedia を使用した非インタラクティブオペレーティングシステムのインストール中に、`nwboot.cfg` ファイルを構成する必要はありません。

`niscu.cfg` ファイルは以下のセクションで構成されています。

- デフォルト (53 ページ)
- SCU (53 ページ)
- NIOS Install (54 ページ)
- ログ収集 (56 ページ)
- OS (57 ページ)
- 応答ファイル (58 ページ)
- ターゲットシステム (59 ページ)

各セクションには一意の名前を付ける必要があります。セクション名は、ユーザが指定します。

デフォルト

[デフォルト (Default)] セクションは、次のパラメータで構成されます。

表 18: デフォルトセクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。
use_http_secure =	HTTPタイプ。 デフォルト値は「はい (Yes) 」です。接続がセキュアでない場合は「いいえ (No) 」と入力します。
update_timeout =	Python スクリプトが開始されてからアクティブになるまでの時間 (分単位)。デフォルト値は 120 分です。有効な範囲は 30 ~ 240 分です。

例

```
[defaults]
use_http_secure=yes
update_timeout=120
```

SCU

[SCU] セクションで、SCU ISO イメージが存在する共有の IP アドレスとアクセスの詳細を入力します。

SCU セクションは、次のパラメータで構成されます。

表 19: SCUセクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。
isoshareip=	SCU ISO 共有の IP アドレス。
isosharepath=	共有内の ISO イメージの場所。
imagefile=	SCU ISO イメージの名前。

パラメータ	説明
isosharetype=	共有タイプ。次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • NFS • CIFS • WWW (HTTP または HTTPS)
isoshareuser=	共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。
isosharepassword=	
bootmedium=	ブートに使用するメディア。次のタイプがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • vmedia : vmedia から起動します。 • flexmmc : eMMC から起動します。 • microsd : microsd から起動します。
nios_section =	OS インストール プロセスを含む nios_install セクション。

例

```
[scu_iso]
isoshareip=192.0.2.10
isosharepath=/cifsshare
imagefile=ucs-cxxx-scu-5.0.0.39.iso
isosharetype=cifs
isoshareuser=Administrator
isosharepassword=John123
bootmedium=vmedia
```

NIOS Install

[NIOS インストール (NIOS Install)]セクションでは、OS インストールプロセスを開始します。このセクションは、次のパラメータで構成されています。

表 20: [NIOS インストール (NIOS Install)]セクションのパラメータ

パラメータ	説明
remoteShareIp=	scuConfigFile リモート共有の IP アドレス
remoteSharePath=	scuConfigFile リモート共有パス。
remoteShareFile=	リモート共有の scuConfigFile

パラメータ	説明
remoteShareType=	リモート共有プロトコル。次の製品がサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP • TFTP • WWW (HTTP または HTTPS)
username=	リモート共有にアクセスするためのユーザーログイン情報。
password=	
scubootmedium =	SCU ブートに使用するメディア。次のタイプがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • HTTP : HTTP または HTTPS から起動する場合 • PXE : PXE から起動する場合 • IPXE : IPXE から起動する場合 • vmedia : vmedia から起動します。 • flexmmc : eMMC から起動します。 • microsd : microsd から起動します。
osBootMedium=	SCU ブートに使用するメディア。 vmedia はサポートされているメディアです。
targetDiskType =	ターゲットディスクのタイプ。次のタイプがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • physicaldisk • virtualdisk • microsd

例

```
[nios_install]
niosremoteshareip=10.10.10.10
niosremotesharepath=/home/nfstest/xyz/config/
niosremotesharefile=scuConfigFile_VMEDIA_VMEDIA_RHEL8_4
niosremotesharetype=scp
niosusername=root
niospassword=Jack123
niosscubootmedium=vmedia
```

```
niososbootmedium=vmedia
niostargetdisktype=physicaldisk
```

ログ収集

[ログ収集 (Log Collection)]セクションで、インストールログが保存される共有の IP アドレスとアクセスの詳細を入力します。

[ログ収集 (Log Collection)]セクションは、次のパラメータで構成されます。

表 21: [ログ収集 (Log Collection)]セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。
remshareip=	インストール中にログファイルが生成される共有の IP アドレス。
remsharepath=	共有内のログファイルの場所。インストール中に生成されたログデータは、このファイルに保存されます。 共有の絶対パスを入力します。
remsharefile=	リモートサーバに SCU NI-OSI ログを保存するファイル名。 デフォルト値は share_file です。
remsharetype=	共有へのアクセスに使用されるプロトコルタイプ。次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP
remshareuser= remsharepassword=	共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。

例

```
[log_info]
remshareip=192.0.2.100
remsharepath=PATH
remsharefile=share_file
remsharetype=scp
remshareuser=user
remsharepassword=xxxx
```

OS

[OS]セクションで、設定ファイルがある共有のアクセスの詳細を指定します。設定ファイルには、niscu.cfgで使用されるオペレーティングシステムの詳細が含まれています。[OS]セクションは、単一のオペレーティングシステム専用です。別のOSをインストールする場合は、対応する設定ファイルでこのセクションを繰り返します。config_fileの詳細については、[Modifying config_file の変更 \(60 ページ\)](#) を参照してください。

OS セクションは、次のパラメータで構成されます。

表 22: OS セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。 ここで指定した名前は、[ターゲット サーバ (Target Server)] セクションの config_section パラメータの値として使用する必要があります。
ip=	Config ファイルがある共有の IP アドレス。
path=	共有内の Config ファイルの場所。
file=	オペレーティングシステムの詳細を含む Config ファイル。
username=	共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。
password=	
protocol=	共有へのアクセスに使用されるプロトコル。 次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP • HTTP • TFTP

例

```
[OS_iso]
ip=192.0.2.200
path=/var/www/html/huu
file=config_file
username=root
password=Huudefault369
protocol=scp
```

応答ファイル

[応答ファイル (Answer File)] セクションで、応答ファイルがある共有のアクセスの詳細を入力します。応答ファイルには、カスタム OS 展開に関する詳細が含まれています。デフォルト設定でオペレーティングシステムをインストールする場合 (クイック インストール)、このセクションはオプションです。

表 23: 応答ファイル セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。 ここで定義した名前は、ターゲットサーバセクションの「answerfile_section」パラメータの値として使用する必要があります。
ip=	応答ファイルを含む共有の IP アドレス。
path=	共有内の応答ファイルの場所。
file=	キックスタートファイル。カスタム インストールの場合、必要なインストールの詳細がキックスタートファイルに含まれています。
username=	共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。
password=	
protocol=	共有のマウントに使用されるプロトコル タイプ。 次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP • HTTP • TFTP

例

```
[OS_answerfile]
ip=192.0.2.254
path=/home/SCU/NI_SCU/Files/
file=esxi_ks.cfg
username=root
password=root@123
protocol=scp
```

ターゲットシステム

このセクションでは、オペレーティングシステムがインストールされているターゲットサーバの詳細を入力します。このセクションには、niscu.cfg ファイルに渡される Config ファイルと応答ファイルの詳細も含まれています。複数のサーバにオペレーティングシステムを展開する場合は、ターゲットサーバ、Config ファイル、および応答ファイルの詳細を使用してこのセクションを繰り返します。

表 24: [ターゲットシステム (Target System)] セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	このセクションに名前を付ける場合は、cimc の後にアンダースコア (_) と数字の形式を使用します。番号は、ターゲットサーバインスタンスを定義します。
address=	OS がインストールされているターゲットサーバの IP アドレス。
user=	ターゲットサーバにアクセスするためのユーザー ログイン情報。
password=	
imagefile=	画像ファイル名
config_section =	OS セクションの名前をここに入力する必要があります。たとえば、OS セクション名が「rhel_iso」の場合は、その名前をここに入力します。
servernode =	OS をインストールするノードを選択します。このオプションは、C3260 および S3260 M4 サーバにのみ適用されます。 1 を入力してノード 1 を選択します。2 を入力してノード 2 を選択します。「all」と入力して両方のノードを選択します。
[answerfile]	[応答ファイル (Answer File)] セクションの名前をここに入力します。たとえば、[応答ファイル (Answer File)] セクションが「OS_answerfile」の場合は、その名前をここに入力します。 これは省略可能なパラメータです。[応答ファイル (Answer file)] セクションは、カスタムインストールの場合にのみ必要です。

例

```
[cimc_1]
address=192.0.2.10
user=admin
password=Cisucs891
imagefile=ucs-cxxx-scu-5.0.0.39.iso
config_section=OS_iso
servernode=1
answerfile_section=OS_answerfile

[cimc_2]
address=192.0.2.20
user=admin
password=Ciscoucs345
imagefile=ucs-cxxx-scu-5.0.0.39.iso
config_section=OS_iso
servernode=2
answerfile_section=OS_answerfile
```

Modifying conf_file の変更

conf_file には、ターゲットサーバーに展開されているオペレーティングシステムの詳細が含まれています。conf_file には、次のパラメータが含まれます。

表 25: conf_file のパラメータ

パラメータ	説明
shareMapType :	共有タイプ。次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • NFS • CIFS • WWW (HTTP および HTTPS)
shareIP :	OS ISO ファイルが保存されている共有の IP アドレス。
sharePath :	OS ISO ファイルの場所。
sharefile:	OS ISO ファイルの名前。
username:	共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。
パスワード :	ユーザ名とパスワードを入力します。
osName:	オペレーティングシステムのフォーマット。オペレーティングシステムのフォーマットについては、 Modifying conf_file を参照してください。

パラメータ	説明
osDrive :	<p>オペレーティングシステムがインストールされているドライブ。</p> <p>たとえば、sdd と sde は 1 番目と 2 番目の VD を表します。</p> <p>ただし、ディスクの列挙は、設定されている JBOD と VD の数によって異なります。単一の JBOD が構成されているとします。次に、JBOD が最初に列挙され、sde と sdf が最初と 2 番目の VD を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DriveSerialNumber : Z1W4PB48000R610JQWP # OS をインストールする必要がある LSI / Noe-Valley RAID コントローラーまたは NVMe ディスクに接続されているドライブのシリアル番号。 • StorageControllerSlotID: MRAID # コントローラ スロット ID。DriveSerialNumber が存在する場合、これは無視されます。 VirtualDriveNumber: 0 # VD OS をインストールする必要があるドライブの番号。 LSI/Noe-Valley RAID コントローラーの場合は、StorageControllerSlotID とともに VirtualDriveNumber を指定する必要があります。 • VirtualDriveName : OS をインストールする必要があるハイパーバイザ # VD 名。SD カード ドライブにのみ適用されます。 <p>(注) 上記のオプションは排他的です。上記のいずれかを指定できます。</p>

パラメータ	説明
Edition :	<p>Windows パラメータのみ。このパラメータは、Windows のカスタム インストールとクイックインストールの両方に適用されます。</p> <p>次のエディションがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準 DATACENTER STANDARD CORE DATACENTER CORE

例

```

shareMapType:www
shareIp:192.0.2.100
sharePath:/hhu
shareFile:VMware-VMvisor-Installer-5-5-0_update03-3116895_x86_64.iso
userName:root
password:HuuWelcome123
osName:esxi5u5x64
osDrive:/dev/sde
Edition:STANDARD
MediaType:Local
Interface:eth0
BootProto:static
IP:192.0.2.254
Subnet:255.255.255.0
Gateway:192.0.2.100
DNS:192.0.2.100

```

次の表に、オペレーティング システム フォーマットの例をいくつか示します。

表 26: オペレーティング システムのフォーマット

オペレーティング システム	バージョン	フォーマット
Rocky Linux	Rocky Linux 8 Update 6	rocky8u6x64
	Rocky Linux 8 Update 7	rocky8u7x64
	Rocky Linux 9 Update 1	rocky9u1x64
Oracle Linux	Oracle Linux 7 Update 9	oracle7u9x64
	Oracle Linux 8 Update 6	oracle8u6x64
	Oracle Linux 9	oracle9u0x64
RHEL	RHEL 8.0	rhel8ux64
	RHEL 8.4	rhel8u4x64

オペレーティング システム	バージョン	フォーマット
SLES	SLES 15 SP3 SLES 15.0	sles15sp3x64 sles15x64
Ubuntu	Ubuntu 20.4.2	ubuntu20042x64
Esxi	Esxi 7.0U3 Esxi 6.7.3	esxi7u03x64 esxi6u73x64
Windows	Windows Server 2019 および 2022	w2k19x64 w2k22x64

OS 展開を開始するための Python スクリプトの実行

手順

ステップ 1 Python スクリプトを実行する Linux クライアントシステムに次のコンポーネントをインストールします。

- 4.1.1 以前の Python 2.7.x
- 4.2.1 以降の Python 3.x
- Open SSL バージョン 1.0.1e-fips 以降

ステップ 2 Linux クライアントシステムで、次のコマンドを実行します。

```
python os_install-4.2.yc.yyyymmddab.py -c niscu.cfg
```

ここで、`os_install-4.2.yc.yyyymmddab.py` は Python スクリプトで、`niscu.cfg` は SCU ISO イメージと OS の詳細に関する情報を含む設定ファイルです。

Python スクリプトが実行されると、ターゲット サーバが SCU ISO で起動します。SCU が起動すると、構成ファイルにマッピングされている OS ISO イメージがマウントされます。SCU は、ターゲット サーバにオペレーティング システムをインストールします。

コマンドを使用したオペレーティングシステムのインストール

手順

	コマンドまたはアクション	目的																		
ステップ 1	単一のサーバーにオペレーティングシステムをインストールするには、次のオプションを使用します。	<p data-bbox="873 575 1409 604">表 27: 単一サーバーに OS をインストールするオプション</p> <table border="1" data-bbox="873 632 1489 1812"> <thead> <tr> <th data-bbox="873 632 1179 678">オプション</th> <th data-bbox="1179 632 1489 678">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="873 684 1179 779">-a a.b.c.d, --address=a.b.c.d</td> <td data-bbox="1179 684 1489 779">ターゲットサーバーの IP アドレス。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="873 785 1179 879">-u USERNAME, --user=USERNAME</td> <td data-bbox="1179 785 1489 879" rowspan="2">ターゲットサーバーにアクセスするための管理者ユーザーログイン情報。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="873 886 1179 957">-p PASSWORD, --password=PASSWORD</td> </tr> <tr> <td data-bbox="873 963 1179 1058">-m scu.iso, --imagefile=scu.iso</td> <td data-bbox="1179 963 1489 1058">SCU ISO ファイルの名前。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="873 1064 1179 1188">-i a.b.c.d, --isoshareip=a.b.c.d</td> <td data-bbox="1179 1064 1489 1188">SCU ISO イメージが存在するリモート共有の IP アドレス。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="873 1194 1179 1289">-d /data/image, --isosharepath=/data/image</td> <td data-bbox="1179 1194 1489 1289">共有内の ISO イメージの場所。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="873 1295 1179 1644">-t cifs/nfs/www, --isosharetype=cifs/nfs/www</td> <td data-bbox="1179 1295 1489 1644"> リモート共有のタイプ。 次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • CIFS • NFS • WWW (HTTP または HTTPS) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="873 1650 1179 1724">-r ISOSHAREUSER, --isoshareuser=ISOSHAREUSER</td> <td data-bbox="1179 1650 1489 1812" rowspan="2">SCU ISO イメージがある共有にアクセスするための管理者ユーザーログイン情報。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="873 1730 1179 1812">-w ISOSHAREPASSWORD, --isosharepassword=ISOSHAREPASSWORD</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	-a a.b.c.d, --address=a.b.c.d	ターゲットサーバーの IP アドレス。	-u USERNAME, --user=USERNAME	ターゲットサーバーにアクセスするための管理者ユーザーログイン情報。	-p PASSWORD, --password=PASSWORD	-m scu.iso, --imagefile=scu.iso	SCU ISO ファイルの名前。	-i a.b.c.d, --isoshareip=a.b.c.d	SCU ISO イメージが存在するリモート共有の IP アドレス。	-d /data/image, --isosharepath=/data/image	共有内の ISO イメージの場所。	-t cifs/nfs/www, --isosharetype=cifs/nfs/www	リモート共有のタイプ。 次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • CIFS • NFS • WWW (HTTP または HTTPS) 	-r ISOSHAREUSER, --isoshareuser=ISOSHAREUSER	SCU ISO イメージがある共有にアクセスするための管理者ユーザーログイン情報。	-w ISOSHAREPASSWORD, --isosharepassword=ISOSHAREPASSWORD
オプション	説明																			
-a a.b.c.d, --address=a.b.c.d	ターゲットサーバーの IP アドレス。																			
-u USERNAME, --user=USERNAME	ターゲットサーバーにアクセスするための管理者ユーザーログイン情報。																			
-p PASSWORD, --password=PASSWORD																				
-m scu.iso, --imagefile=scu.iso	SCU ISO ファイルの名前。																			
-i a.b.c.d, --isoshareip=a.b.c.d	SCU ISO イメージが存在するリモート共有の IP アドレス。																			
-d /data/image, --isosharepath=/data/image	共有内の ISO イメージの場所。																			
-t cifs/nfs/www, --isosharetype=cifs/nfs/www	リモート共有のタイプ。 次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • CIFS • NFS • WWW (HTTP または HTTPS) 																			
-r ISOSHAREUSER, --isoshareuser=ISOSHAREUSER	SCU ISO イメージがある共有にアクセスするための管理者ユーザーログイン情報。																			
-w ISOSHAREPASSWORD, --isosharepassword=ISOSHAREPASSWORD																				

	コマンドまたはアクション	目的	
		オプション	説明
		-o BOOTMEDIUM, --bootMedium=BOOTMEDIUM	更新に使用されるブートメディア。 次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none">• vmedia• microsd• flexmmc
		-q TIMEOUT, --timeout=TIMEOUT	NISCU OS Installation timeout
		-M ISOMOUNTOPTION, --isomountoption=ISOMOUNTOPTION	CIFS 共有の場合は、マウントオプションを使用してセキュリティオプションを指定します。
		-I a.b.c.d, --remshareip=a.b.c.d	スナップショットの結果が保存されるリモート共有の IP アドレス。
		-D /data/image, --remsharepath=/data/image	スナップショットを保存するディレクトリが共有になります。
		-F REMOTESHAREFILE, --remoteShareFile=REMOTESHAREFILE	共有ファイルの名前。
		-T scp/sftp, --remsharetype=scp/sftp	共有のタイプです。 次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none">• SCP• SFTP
		-U REMSHAREUSER, --remshareuser=REMSHAREUSER -W REMSHAREPASSWORD, --remsharepassword=REMSHAREPASSWORD	スナップショットの結果を保存するために共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。
		-x CONFIGSHAREIP, --configShareIp=CONFIGSHAREIP	構成ファイルがあるリモート共有の IP アドレス。

	コマンドまたはアクション	目的	
		オプション	説明
		-y CONFIGSHAREPATH, --configSharePath=CONFIGSHAREPATH	共有内の構成ファイルの場所へのパス。
		-z CONFIGSHAREFILE, --configShareFile=CONFIGSHAREFILE	構成ファイルの名前。
		-j CONFIGSHARETYPE, --configShareType=CONFIGSHARETYPE	共有のタイプ。
		-b CONFIGSHAREUSERNAME, --configShareName=CONFIGSHAREUSERNAME -e CONFIGSHAREPASSWORD, --configSharePassword=CONFIGSHAREPASSWORD	構成ファイルが存在する共有にアクセスするためのユーザーログイン情報のユーザーログイン情報。
		-X ANSWERFILESHAREIP, --answerFileShareIp=ANSWERFILESHAREIP	応答ファイルが存在する共有の IP アドレス。
		-Y ANSWERFILESHAREPATH, --answerFileSharePath=ANSWERFILESHAREPATH	共有内の応答ファイルの場所へのパス。
		-Z ANSWERFILESHAREFILE, --answerFileShareFile=ANSWERFILESHAREFILE	応答ファイルの名前。
		-J ANSWERFILESHARETYPE, --answerFileShareType=ANSWERFILESHARETYPE	共有のタイプ。
		-B ANSWERFILEUSERNAME, --answerFileName=ANSWERFILEUSERNAME -E ANSWERFILEPASSWORD, --answerFilePassword=ANSWERFILEPASSWORD	応答ファイルがある共有にアクセスするためのユーザーログイン情報のユーザーログイン情報。
		-N SERVERNODE, --serverNode=SERVERNODE	OS をインストールするノードを選択します。このオプションは、C3260 および S3260 M4 サーバーにのみ適用されます。 1 と入力してノード 1 を選択します。2 と入力してノード 2 を選択します。ALL と入力して、両方のノードを選択します。

	コマンドまたはアクション	目的	
		オプション	説明
		-f LOGFILE, --logrecordfile=LOGFILE	ログデータを含むログファイルの名前。
		表 28: NIOS_Install セクションの CLI オプション	
		オプション	説明
		-A NIOSREMOTESHAREIP, niosremoteshareip=NIOSREMOTESHAREIP	非インタラクティブ OS インストール用のリモート共有の IP アドレス
		-G NIOSREMOTESHAREPATH, niosremotesharepath=NIOSREMOTESHAREPATH	非インタラクティブ OS インストール用のリモート共有のパス
		-H NIOSREMOTESHAREFILE, niosremotesharefile=NIOSREMOTESHAREFILE	非インタラクティブ OS インストール用のリモート共有のファイル名
		-K NIOSREMOTESHARETYPE, niosremotesharetype=NIOSREMOTESHARETYPE	非インタラクティブ OS インストールのリモート共有タイプ
		-L NIOSUSERNAME, --niosusername=NIOSUSERNAME	Cisco IMC 管理ユーザーのユーザー名
		-O NIOSPASSWORD, --niospassword=NIOSPASSWORD	Cisco IMC 管理者ユーザーのパスワード
		-P NIOSSCUBOOTMEDIUM, niosscubootmedium=NIOSSCUBOOTMEDIUM	非インタラクティブ OS インストール用のブートメディア
		-Q NIOSOSBOOTMEDIUM, niososbootmedium=NIOSOSBOOTMEDIUM	非インタラクティブ OS インストール用の OS メディア
		-R NIOTARGETDISKTYPE, niotargetdisktype=NIOTARGETDISKTYPE	非インタラクティブ OS インストールのターゲットディスクタイプ

例**例 1: クイック インストールのオプション**

この例では、コマンドオプションは 198.51.10.10 の Windows のクイック インストールに役立ちます。SCU ISO イメージは 198.51.100.100 にあります。conf_file は 198.51.100.100 に配置されます。OS インストール ログ ファイルは、198.51.100.254 に保存されます。NI-SCU スクリプト ログ ファイルは、スクリプトが実行される同じクライアント システムに保存されます。

```
python3 os_install.py -a 198.51.100.10 -u user1 -p passwd
-m ucs-cxxx-scu-6.2.xx.iso -o vmedia -i 198.51.100.100
-d /utils_share/scu/kb -t nfs -r user2 -w passwd1 -I 198.51.100.100
-D /niscu/new_TH2U
-F niscu_cli_remsharefile1 -T scp -U user3 -W passwd2 -x 198.51.100.254
-y /niscu/new_TH2U
-z conf_file -j sftp -b abcd -e passwd -f log_latest
```

例 2: カスタム インストールのオプション

この例では、コマンドオプションは 198.51.10.10 の Windows のカスタム インストールに役立ちます。SCU ISO イメージは 198.51.100.100 にあります。conf_file は 198.51.100.100 に配置されます。カスタム インストールに必要な応答ファイルは 198.51.100.110 にあり、win_answer_file という名前です。OS インストール ログ ファイルは、198.51.100.254 に保存されます。NI-SCU スクリプト ログ ファイルは、スクリプトが実行される同じクライアント システムに保存されます。

```
python3 os_install.py -a 198.51.100.10 -u user1 -p passwd
-m ucs-cxxx-scu-6.2.xx.iso -o vmedia -i 198.51.100.100
-d /utils_share/scu/kb -t nfs -r user2 -w passwd1 -q 120 -I 198.51.100.100
-D /niscu/new_TH2U
-F niscu_cli_remsharefile1 -T scp -U user3 -W passwd2 -x 198.51.100.254
-y /niscu/new_TH2U
-z conf_file -j sftp -b abcd -e passwd -X 198.51.100.254
-Y /niscu/answer_files
-Z rhel.cfg -J sftp -B user4 -E passwd-f log_latest
```

niscu.cfg ファイルの例

nwboot.cfg ファイルの例

```
{
  "Update_Timeout": 240,
  "SCURepository": {
    "BootMedium": {
      "VMEDIA": {
        "ImageRepository": "10.10.10.1/home/nfsshare/iso/scu.iso",
        "TransferProtocol": "nfs",
        "Username": "root",
        "Password": "password",
        "MountOptions": ""
      },
      "HTTP": {
        "ImageRepository": "http://10.10.10.1:80/iso/scu.iso",
```

```

        "MACAddress": "70:df:2f:86:af:02",
        "PCIEslot": "L",
        "PhysicalPortNumber": 1,
        "IPv4Address": {
            "AddressOrigin": "Static",
            "Address": "10.104.255.179",
            "Gateway": "10.104.255.129",
            "SubnetMask": "255.255.255.128",
            "StaticNameServer": "64.104.76.247"
        },
        "IPv6Address": {
            "AddressOrigin": "DHCPv6",
            "Address": "fc00:1234::a:b:c:d",
            "PrefixLength": 64,
            "Gateway": "fe80::fe15:b4ff:fe97:90cd",
            "StaticNameServer": "fe80::fe15:b4ff:fe97:90cd"
        }
    },
    "FLEXMMC": {
        "ImageRepository": "scu.iso"
    },
    "MICROSD": {},
    "PXE": {
        "ImageRepository": "ftp://10.104.255.224/pub/scu",
        "MACAddress": "70:df:2f:86:af:02",
        "PCIEslot": "L",
        "PhysicalPortNumber": 1,
        "IPv4Address": {
            "AddressOrigin": "DHCP"
        }
    },
    "IPXE": {
        "ImageRepository": "http://10.10.10.1/iso/scu.iso",
        "MACAddress": "70:df:2f:86:af:02",
        "PCIEslot": "L",
        "PhysicalPortNumber": 1
    }
},
"OSDetails": {
    "OSRepository": {
        "MediaType": "Local",
        "BootMedium": {
            "VMEDIA": {
                "ImageRepository":
"10.10.10.1/home/nfsshare/iso/rhel/RHEL-8.5.0-20211013.2-x86_64-dvd1.iso",
                "TransferProtocol": "nfs",
                "Username": "root",
                "Password": "password",
                "MountOptions": ""
            }
        }
    }
},
"TargetOS": {
    "OSName": "rhel8u5x64",
    "OSEdition": "None"
},
"TargetDisk": {
    "PHYSICALDISK": {
        "DriveSerialNumber": "06VSGVVB"
    },
    "VIRTUALDISK": {

```

```

        "StorageControllerSlotID": "MRAID",
        "VirtualDriveNumber": 0
    },
    "DISKNAME": {
        "OSDrive": "/dev/sdk"
    },
    "VIRTUALDRIVENAME": {
        "VirtualDriveName": "Hypervisor"
    },
    "ONBOARDSATAM2SSD": {
        "SATAM2SSD": "slot1"
    },
    "M2SWVDNAME": {
        "M2SWRAIDName": "RAID0"
    },
    "FC": {
        "HostWWPN": "10:00:54:88:DE:A7:32:6F",
        "TargetWWPN": "50:06:01:68:3E:A0:62:22",
        "Lun": 200
    },
    "ISCSI": {
        "MACAddress": "70:DF:2F:86:AE:FD",
        "PrimaryTargetName":
"iqn.2001-05.com.equallogic:0-af1ff6-082b3ebe6-cf2005780845d665-iqn.siva-25.com",
        "PrimaryLUN": 1
    }
},
"RemoteLog": {
    "ImageRepository": "10.10.10.10/home/nfstest/scu.log",
    "TransferProtocol": "scp",
    "Username": "root",
    "Password": "john123"
},
"AnswerFile": {
    "ImageRepository": "10.10.10.10/home/nfstest/answerfile",
    "TransferProtocol": "scp",
    "Username": "root",
    "Password": "john123"
}
}

```

conf_file および niscu.cfg ファイルの例

conf ファイルの例

```

shareMapType:www
shareIp:10.10.10.10
sharePath:/path/to/iso
shareFile:rhel66.iso
userName:www
password:www
osName:rhel6u6x64
osDrive:/dev/sdk

DriveSerialNumber:Z1W4AC48000Z610ABCD

StorageControllerSlotID:MRAID

VirtualDriveNumber:0

```

```
VirtualDriveName:Hypervisor
SATAM2SSD:slot1
M2SWRAIDName:RAID00
Edition:STANDARD
```

niscu.cfg ファイルの例

```
#
# This file is just a template file and suggest user not to use this file directly without
# deleting comments and other info
#
# User has to create their own config file instead of using this.
#
#
[defaults]
use_http_secure=yes
update_timeout=120

[scu_iso]
isoshareip=10.10.10.10
isosharepath=/path/to/file
imagefile=ucs-cxx-scu.iso
isosharetype=www
isoshareuser=root
isosharepassword=password
mountoption=noauto # Multiple mount options shall be passed as a comma separated list.
Example - nolock,rw
bootmedium=vmedia # Value shall be vmedia - to boot from vmedia or flexmmc- to boot
from eMMC or microsd - to boot from microsd

##### Section to store SCU NI-OSI logs on Remote Server
#####

[output_location]
remshareip=10.10.10.10
remsharepath=/path/to/file
remsharefile=share_file
remsharetype=scp/sftp
remshareuser=root
remsharepassword=password

#####Section for one server starts here#####

[rhel_iso]
ip=10.10.10.10
path=/path/to/conf_file
file=conf_file
username=root
password=password
protocol=scp # supports scp, sftp, tftp and www

[rhel_answerfile]
ip=10.10.10.10
path=/path/to/answer_file
file=rhel66_custom.ks#Keep this field blank for quick install else give name of kickstart
file to perform Custom install for RHEL,CENT, SLES, Ubuntu
username=root
password=password
protocol=scp # supports scp, sftp, tftp and www

##### Section for Network Boot Support starts here #####
[nios_install]
niosremoteshareip=10.10.10.10
niosremotesharepath=/home/nfstest/config #config template file path for scu boot from
```

```
network location
niosremotesharefile=nwboot.cfg #config template file for scu boot from network location
niosremotesharetype=scp
niosusername=root
niospassword=Ucsrack4All
niosscubootmedium=pxe #type of the boot pxe/http/ipxe
niososbootmedium=vmedia #currently only vmedia is supported
niostargetdisktype=physicaldisk #target disk details

[cimc_1]
address=10.10.10.10
user=admin
password=password
imagefile=ucs-cxx-scu.iso
config_section=rhel_iso
answerfile_section=rhel_answerfile #Mandatory for Custom Install for RHEL,CENT, SLES and
Ubuntu. Remove this line, to perform Quick install.
nios_section=nios_install #nios_install section, if this section is present then it takes
the priority over scu_iso section.
servernode=1/2/all # For Colusa2 .

#servernode option to be passed only in case of colusa2 For other server dont specify
this option
#####Section for one server ends here#####
#####
##### To trigger os installation for multiple servers simply repeate above section with
details for other server
##### and OS, also define separate conf_file for other server
#####
```



第 8 章

RAID レベルの構成

- RAID 設定 (73 ページ)
- ストレージの設定 (73 ページ)
- RAID アレイの作成 (76 ページ)

RAID 設定

RAID 設定機能を使用して、オンボードまたは PCIe でサポートされる RAID コントローラ カードを設定できます。

システムに複数の RAID コントローラがある場合、UCS-SCU は、[RAID Configuration] ページに、すべての使用可能な RAID カードと、物理および論理ディスクのリストを表示します。

次の RAID 設定オプションを使用できます。

- 単一の RAID レベル : RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 6
- ネストされた RAID レベル : RAID 10、RAID 50、および RAID 60

ストレージの設定

RAID 構成ページには、次のコンポーネントが含まれます。

表 29: RAID 構成ページ

コンポーネント	説明
物理ディスク領域	サーバで使用可能な物理ディスクのリストをテーブル形式で格納します。「物理ディスク領域 (74 ページ)」を参照してください。

コンポーネント	説明
論理ディスク領域	サーバで使用可能な仮想ディスクのリストがテーブル形式で含まれています。「 論理ディスク領域 (75 ページ) 」を参照してください。
[RAID の作成 (Create RAID)] ボタン	この機能を使用して、新しい RAID を作成できます。 単一レベル RAID の構成 (76 ページ) および ネストされた RAID の構成 (77 ページ) を参照してください。
[RAID の削除 (Delete RAID)] ボタン	この機能を使用して、既存の RAID を削除できます。既存の RAID を削除するには、 論理ディスク領域 から選択し、 [削除 (Delete)] をクリックします。
[Refresh] ボタン	この機能を使用して、RAID リストを更新できます。

物理ディスク領域

[RAID Configuration] ページの [Physical Disks] テーブルには、次の内容が一覧表示されます。

表 30: 物理ディスク

列	説明
Enc ID	物理ディスクの識別番号。
[スロット ID (Slot ID)]	物理ディスクが属するスロット。
デバイス ノード (Device Node)	物理ディスクが属するデバイス ノード。
Size (MB)	物理ディスクのサイズ。
シリアル番号	ディスクのステータス。詳細については、 を参照してください 。
状態 (State)	ディスクのステータス。詳細については、 表 31: ディスク ステータス状態 (75 ページ) を参照してください。
ブロックサイズ	物理ディスクのブロックサイズ。
タイプ (Type)	物理ディスクのタイプ。

表 31: ディスク ステータス状態

ステータス	説明
Online	ドライブが別のアレイですでに使用されています。
Global Hotspare	障害が発生したドライブが、ホットスペアドライブの容量以下である場合に、ドライブ障害があるシステム内のアレイを修復するために使用されます。
Un-configured Good	ドライブは未使用または使用可能です。
Ready	ドライブはオンラインで、正しく動作しています。
Offline	ドライブはオフラインまたは存在しません。ドライブがオンラインになるまで、ドライブに対する操作は実行できません。
Unconfigured Bad	ドライブが動作しておらず、交換する必要があります。 ステータスが「Unconfigured bad」のディスクは、RAID 設定で使用できません。
Foreign	ドライブが、他のコントローラで作成されたアレイか、あるエンクロージャ内で作成され、同じコントローラの別のエンクロージャに移動されたアレイに属しています。設定を削除した後、新しいアレイの作成に使用できます。

論理ディスク領域

[RAID 構成 (RAID Configuration)] ページの [物理ディスク (Physical Disks)] テーブルには、次の内容が一覧表示されます。

表 32: 論理ディスク

列	説明
[Select] チェックボックス	[選択 (Select)] チェックボックスを使用して、1 つ以上のディスクを選択します。
VD No	VD の ID 番号。
名前	VD の名前。

列	説明
デバイス ノード (Device Node)	VD が属するデバイス ノード。
Size (MB)	論理ドライブのサイズ。最大値は、選択した RAID レベルと、関係する物理ディスクのサイズによって異なります。
[RAID レベル (RAID Level)]	RAID 0 (データ ストライピング) 、1 (ディスク ミラーリング) 、5 (パリティをストライプしたデータ ストライピング) 、6 (分散パリティとディスク ストライピング) 。
RAID PD	VD が属する物理ディスク。

RAID アレイの作成

単一レベル RAID の構成

手順

ステップ 1 ナビゲーション ウィンドウから [サーバ構成 (Server Configuration)] > [ストレージ構成 (Storage Configuration)] を選択します。

[RAID 構成 (RAID Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [RAID の作成 (Create RAID)] をクリックします。

[RAID の構成 (Configure RAID)] ページが表示されます。

ステップ 3 [RAID] ドロップダウン リストから、RAID レベルを選択します (0、1、5、6 のいずれか) 。

ステップ 4 左側の [物理ディスク (Physical Disks)] リストから、[ドライブ グループ (Drive Groups)] リストに含める物理ディスクを選択します。

表 33: 必要な物理ドライブの最小数

RAID Level	必要な物理ディスクの数
RAID 0	1
RAID 1	2
RAID 5	3
RAID 6	4

ステップ5 次の情報を入力します。

フィールド	説明
[名前 (Name)]フィールド	RAID の名前を入力します。
[読み取りポリシー (Read Policy)] ドロップダウンリスト	[読み取りポリシー (Read Policy)] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。
[ディスク キャッシュ ポリシー (Disk Cache Policy)] ドロップダウンリスト	[ディスク キャッシュ ポリシー (Disk Cache Policy)] リストから、RAID レベルのディスク キャッシュ ポリシーを選択します。
[ストライプ サイズ (KB)] ドロップダウンリスト	[Stripe Size] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。
[Access Policy] ドロップダウンリスト	[アクセス ポリシー (Access Policy)] リストから、RAID レベルのアクセス ポリシーを選択します。
[キャッシュ ポリシー (Cache Policy)] ドロップダウンリスト	[Cache Policy] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。
[書き込みポリシー (Write Policy)] ドロップダウンリスト	[Write Policy] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。
[サイズ (Size)]フィールドと [単位 (Unit)] ドロップダウンリスト	[サイズ (Size)] テキスト フィールドに論理ディスクのサイズを入力し、[単位 (Unit)] ドロップダウンリストから単位を選択します。

ステップ6 [OK] をクリックします。

(注)

[Create Drive Group] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。

選択した物理ディスクが [Drive Groups] リストに追加されます。

ネストされた RAID の構成

ネストされた RAID レベルには、プライマリとセカンダリの RAID レベルがあります。ネストされた RAID レベルには2つ以上のドライブ グループを作成する必要があり、各ドライブ グループには同じ数の物理ディスクが必要です。

手順

ステップ 1 ナビゲーション ウィンドウから [サーバ構成 (Server Configuration)] > [ストレージ構成 (Storage Configuration)] を選択します。

[RAID 構成 (RAID Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [RAID の作成 (Create RAID)] をクリックします。

[RAID の構成 (Configure RAID)] ページが表示されます。

ステップ 3 RAID ドロップダウンリストから、ネストされた RAID レベルを選択します (10 または 50 または 60)。

ステップ 4 [物理ディスク (Physical Disks)] リストから、[ドライブ グループ (Drive Groups)] リストに含める物理ディスクを選択します。

表 34: 必要な物理ドライブおよびデータ グループの最小数

RAID Level	物理ディスクの最小数	データ グループの最小数
RAID 10	4	2
RAID 50	6	2
RAID 60	8	2

ステップ 5 次の情報を入力します。

フィールド	説明
[名前 (Name)] フィールド	RAID の名前を入力します。
[読み取りポリシー (Read Policy)] ドロップダウン リスト	[読み取りポリシー (Read Policy)] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。
[ディスク キャッシュ ポリシー (Disk Cache Policy)] ドロップダウン リスト	[ディスク キャッシュ ポリシー (Disk Cache Policy)] リストから、RAID レベルのディスク キャッシュ ポリシーを選択します。
[ストライプ サイズ (KB)] ドロップダウン リスト	[Stripe Size] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。
[Access Policy] ドロップダウン リスト	[アクセス ポリシー (Access Policy)] リストから、RAID レベルのアクセス ポリシーを選択します。
[キャッシュ ポリシー (Cache Policy)] ドロップダウン リスト	[Cache Policy] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。
[書き込みポリシー (Write Policy)] ドロップダウン リスト	[Write Policy] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。

フィールド	説明
[サイズ (Size)]フィールドと[単位 (Unit)]ドロップダウンリスト	[サイズ (Size)]テキストフィールドに論理ディスクのサイズを入力し、[単位 (Unit)]ドロップダウンリストから単位を選択します。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

(注)

[Create Drive Group] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。

選択した物理ディスクが [Drive Groups] リストに追加されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。